

審議会資料一式

第 25 期第 2 回滋賀県スポーツ推進審議会

(書面開催)

第 25 期 滋賀県スポーツ推進審議会委員名簿

※委員は五十音順（敬称略）

委員氏名	現職等	備考
岩永 裕貴	滋賀県市長会 甲賀市長	新
太田 千恵子	(一社) 滋賀県障害者スポーツ協会 副会長	
大谷 未央	SASAYURI FC SHIGA サッカー指導者 (アテネオリンピックサッカー日本代表)	
門 久仁裕	(公財) 滋賀県スポーツ協会 常務理事	
駒井 亮太	滋賀医科大学医学部生	
涌井 努	滋賀県中学校体育連盟 彦根市立東中学校長	
高田 博之	(公社) びわこビジターズビューロー 事務局次長	
武田 哲子	びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 准教授	
田中 ゆかり	長浜市立伊香具小学校 教諭 (東京パラリン ピックシッティングバレーボール日本代表)	
土屋 裕睦	大阪体育大学 スポーツ科学部 教授	
永浜 明子	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授	
橋本 孝子	総合型地域スポーツクラブ きのもと eye's 会長	
三好 典子	共同通信社 大津支局長	
藪田 守彦	HPL 株式会社 代表取締役	
渡邊 孝宏	滋賀県障害者スポーツ協会 理事 (卓球専門部)	

委員 15 名

第1章 計画の基本的事項

計画の位置付け

滋賀県スポーツ推進条例第8条に基づき、スポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定するもの。

計画期間

令和5年度から令和9年度までの5年間

滋賀県基本構想の目指す2030年の姿

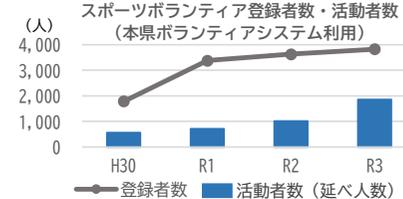
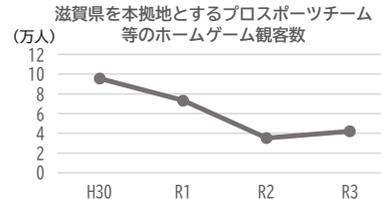
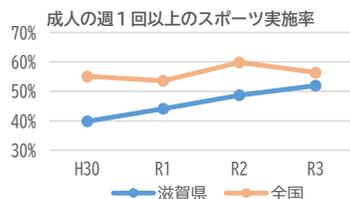
- 誰もが生涯を通じ、様々なつながりの中で自分らしくからだも心も健やかな生活を送っている
 - ・スポーツの習慣などによる健康的な日常生活
 - ・誰もが居場所や生きがいをもち、スポーツ等に親しみながら心豊かに生活
- 滋賀ならではの観光資源等の魅力が発信されていることで、滋賀を訪れる人が増加し、地域が活性化している
- 多様な人々の違いを認め合い、誰もがその人らしく活躍できる共生社会が実現している

第2章 計画策定の背景

社会情勢の変化

- 人口減少と高齢化の進展
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大
- 学校の運動部活動改革に向けた取組
- 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催
- わたSHIGA輝く国スポ・障スポ、ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催
- SDGsとスポーツ

県民のスポーツ活動の状況



第2期計画の取組状況と課題

基本方針Ⅰ スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

- ◆政策1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実
- ◆政策2 スポーツの持つ多様な価値の共有

取組状況

- 「滋賀県民総スポーツの祭典」やオンラインを活用した運動・スポーツ教室、健康推進アプリ「BIWA-TEKU」を活用したウォーキングイベントなどを開催し、**県民のスポーツの機会を創出**
- 小・中学校での体育・保健体育の質的向上に向けた授業公開・研究協議や、休日部活動の地域移行に係る実践研究の実施など、**子どもの運動・スポーツ活動の充実**につながる取組
- 障害者スポーツに係る教室や体験イベントの開催など、**障害のある人のスポーツ活動の充実**
- スポーツイベント等での活動機会の提供や研修会の実施など、**スポーツボランティア活動の充実**
- H.P.「しがスポーツナビ」による多様な情報発信や、「しがスポーツ大使」による県民との交流の創出

主な指標	策定時	H30	R1	R2	R3	目標(R4)
成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率	男 35.6% 女 36.8% (H28)	39.7% 40.0%	45.6% 42.4%	50.1% 47.4%	55.2% 48.6%	65%以上 65%以上
子ども(男・女)の1週間の運動・スポーツ実施時間(土日を含み、平日授業を除く)【小学5年生】	男590.7分 女347.2分 (H28)	586.6分 341.7分	558.8分 330.2分	-	527.5分 313.4分	625分 382分
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.1% (H29)	-	-	28.9%	-	65%以上
スポーツボランティア登録者数(本県ボランティア登録システム利用)	334人 (H28)	1,789人	3,379人	3,629人	3,823人	2,000人以上

※「主な課題」の凡例
 ・：第2期計画期間中に生じた状況
 ✓：次期計画に求められる取組

計画策定に向けた3つの視点

主な課題

- ・ **スポーツ実施率の伸び悩み** (特に働き盛りの世代、女性)
- ・ **子どもの運動・スポーツ実施時間の減少、体力の低下**
- ・ 少子化等の影響による一部の運動部活動の維持困難
- ✓ 働き盛りの世代や女性などが気軽に参加できる取組や行動変容を促す取組の推進
- ✓ 子どものスポーツに対する興味・関心を高める取組の強化や、教員の研修や授業研究の充実、スポーツに継続して親しむことができる機会の確保
- ✓ 障害のある人がスポーツを身近な地域で取り組む機会づくり

基本方針Ⅱ スポーツの力で「元気な地域」を創る！

- ◆政策3 スポーツ施設・環境の充実
- ◆政策4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化

取組状況

- 総合型地域スポーツクラブに対する研修会の実施など、クラブの育成
- スポーツ少年団の指導者養成等の取組に対する支援など、団の育成
- わたSHIGA輝く国スポ・障スポの主会場や滋賀アリーナなど、**県立スポーツ施設の整備**
- 「ピワイチ」の環境整備など、豊かな自然環境を活用したスポーツ

主な指標	策定時	H30	R1	R2	R3	目標(R4)
総合型クラブで指導する有資格指導者数	267人 (H28)	229人	280人	283人	396人	370人以上
県内の公共スポーツ施設の利用者数	6,617,409人 (H26)	583万人	570万人	348万人	411万人	730万人以上
スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数(歴年)	1,002万人 (H28)	1,091万人	1,105万人	795万人	876万人	1,200万人以上
滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844人 (H29)	95,753人	73,262人	35,211人	42,174人	100,000人以上

主な課題

- ✓ **総合型クラブやスポーツ少年団など身近なスポーツをする場の充実**
- ✓ わたSHIGA輝く国スポ・障スポに向けた施設整備の着実な推進
- ✓ ピワイチや湖上スポーツ等、アウトドアスポーツの情報発信
- ✓ 県内プロスポーツチームによる発信やスポーツイベント時の観光プランの提供など、**スポーツを通じた本県の魅力発信**

基本方針Ⅲ スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

- ◆政策5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大
- ◆政策6 地域の特性を生かした大会レガシーの創出

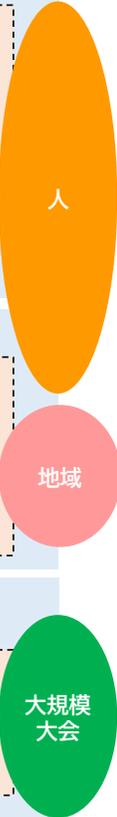
取組状況

- 次世代アスリート発掘育成事業「滋賀レイキッズ」の実施や、トップアスリートの県内就職を支援する職業紹介所「SHIGAアスリートナビ」の開設など、**選手の育成・強化等を推進**
- 東京オリパラの事前宿泊の受入れなど、**ホストタウン相手国との交流を推進**
- 競技会場となる市町への支援や、大会テーマソングの発表等を通じた機運醸成など、**わたSHIGA輝く国スポ・障スポの開催準備を推進**

主な指標	策定時	H30	R1	R2	R3	目標(R4)
国体総合順位	39位 (H29)	31位	30位	-	-	8位以内
県障害者スポーツ大会の参加者数	773人 (H29)	757人	708人	150人	562人	1,000人以上
オリンピック・パラリンピックのホストタウンを通じて海外との交流を始めた市町数	3市 (H28)	5市	5市	5市	5市	6市町以上

主な課題

- ✓ わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等の着実な準備
- ✓ わたSHIGA輝く国スポ・障スポに向けた**県全体の競技力の底上げ**
- ✓ **大規模大会の開催を契機とした開催競技の地域への定着や大会運営等のノウハウの磨き上げ、未来への継承**





～滋賀の強みやチャンスを生かした施策展開～

強み
豊かな自然 歴史・文化 地の利 (スポーツ関係では…) **新たな施設の完成**
大学(スポーツ系学部)等との連携

チャンス
大規模大会が連続して開催

(将来像)

1 県民誰もが「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツを楽しんでいる
子どものスポーツの充実 障害者スポーツ推進 指導者育成
自然・文化と組み合わせたスポーツの推進 女性参画

2 多様な連携・協働等により活力が生まれている
大学等とのより一層の連携・協働 新たな施設の活用

3 大規模大会の成果が根付いている
競技水準定着 シンボルスポート定着 運営ノウハウ継承
スポーツを支える文化の定着 スポーツによる共生社会の実現

目指す姿

スポーツで滋賀を元気に！感動を未来へ！

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、感動を共有し、互いに連携・協働することを通じて、地域に誇りや愛着を持ち、健やかで豊かな生活を営むことができる共生社会の実現

第3章 計画の目指す姿・基本方針等 / 第4章 今後5年間の具体的展開方策

基本方針	施策	展開方策	指標【目標値】	
I 「健やかで豊かな生活」をつくる 【人】	1 生涯にわたるスポーツ活動の充実	(1) 県民総スポーツの機会づくりの推進 (2) 女性や働き盛りの世代に対する参加促進 身近な場所でのスポーツ機会の拡充 / スポーツボランティア活動の参加促進 (3) 健康寿命延伸に向けた取組の推進 (4) スポーツの持つ多様な価値の発信 (5) トップアスリートとの交流機会の創出 (6) スポーツイベント等におけるボランティア活動の促進 (7) 総合型地域スポーツクラブの育成 (8) 指導者の育成等 (9) 公共スポーツ施設の充実・活用 (10) ICTの活用	滋賀県民総スポーツの祭典の開催 / ICT等の活用によるスポーツのきっかけづくりや習慣化 気軽に取り組める機会づくり / 運動・スポーツの効果の発信 / 団体等における女性の活動の促進等 ホームページやSNSによる情報発信/プロスポーツチーム等との連携による情報発信/スポーツに係る功績の情報発信 しがスポーツ大使と子どもたちをはじめとする県民との交流に対する支援 今後の大規模大会を見据えた研修等の実施・活動機会の提供 総合型クラブの機能充実 / 広域スポーツセンターの活動充実 / 組織体制・ガバナンスの確立 公認スポーツ指導者の育成支援 / 県内の指導者情報の活用に向けた取組 県立スポーツ施設の充実・活用 / 県立都市公園等のスポーツ施設の活用 スポーツイベントや県立スポーツ施設におけるオンライン手続の活用	◎成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率 【男女ともに70%以上】 ◎スポーツボランティア参加者数 【3,800人以上】 ◎公認スポーツ指導者数【4,300人以上】 ◎国体・国スポの監督に占める女性の割合 【25%以上】 ◎県内の公共スポーツ施設(社会体育施設・都市公園等)における運動施設の利用者数 【880万人以上】
	2 子どもの運動・スポーツ活動の充実	(1) 子どもの運動(遊び)・スポーツ活動の機会の拡大 (2) スポーツ少年団の育成 (3) 小・中学校における体育・保健体育の授業改善 (4) 中学・高校生の運動機会の充実	幼児の運動遊びの充実 / 小・中学生の体力向上 スポーツ少年団活動の充実 / 指導者の確保・資質の向上 授業内容の充実 / 指導力の向上 / 望ましい生活習慣の定着 運動部活動の充実 / 指導者の育成 / 運動部活動の地域連携・地域移行	◎「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合 【小学5年生】【男子74.0%以上 女子54.0%以上】 【中学2年生】【男子62.0%以上 女子45.0%以上】
	3 障害のある人のスポーツ活動の充実	(1) 障害のある人の参加機会の拡大と定着 (2) 障害者スポーツの理解促進 (3) 競技を志向する人への情報提供	スポーツ大会等の開催 / 地域における参加機会づくり / 指導者・ボランティアの養成 / 県立スポーツ施設等におけるバリアフリーの促進 障害者スポーツの啓発 / スポーツ施設管理者等の意識の醸成 活動充実のための相談対応・競技情報提供、競技紹介や魅力の普及等	◎障害者の週1回以上のスポーツ実施率 【50%以上】 ◎県障害者スポーツ大会等の参加者数 【1,600人以上】 ◎公認障がい者スポーツ指導者数【490人以上】
II 「活力のある地域」をつくる 【地域】	4 スポーツを通じた連携・協働の推進	(1) 地域とスポーツ団体等との連携・協働の推進 (2) 大学や企業、プロスポーツチーム等との連携・協働の推進	子どもの運動・スポーツ活動の推進 / 障害者スポーツ関係団体等との連携・協働 / 健康づくり・交流機会の拡充 大学や企業との連携 / プロスポーツチーム等との多様な連携	◎アスリートを採用した県内企業数【64社以上】 ◎県内のプロスポーツチーム等との連携およびスポーツを通じた大学との連携の件数【90件以上】
	5 スポーツを生かした地域の活性化	(1) 豊かな自然環境や文化財等の観光資源を活用したスポーツの推進 (2) スポーツツーリズムの推進 (3) スポーツイベント等を生かした地域の活性化 (4) プロスポーツチーム等を生かした地域の活性化	自然環境や文化財等を活用したスポーツの推進 / 琵琶湖を舞台とした湖上スポーツの推進 官民連携によるスポーツイベント開催に合わせた旅行商品の造成等 びわ湖マラソンやBIWAKOクロカン、全国中学校駅伝大会、朝日レガッタの開催 観戦機会の増加等のための情報発信、発信力を生かした本県の魅力発信	◎スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数【1,200万人以上】 ◎滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数【12万人以上】
III 感動を未来へつなぐ 【大規模大会】	6 わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等に向けた競技力向上と競技水準の定着	(1) 選手の育成・強化 (2) 指導体制の充実 (3) 強化拠点の構築・環境の整備 (4) 大会後の競技水準の定着	ジュニア選手の育成・強化 / 成年選手の育成・強化・確保 / 女性アスリートの育成・強化 / 障害者スポーツ選手の発掘・育成・強化 指導者の養成・資質向上 / 組織的な競技力向上の推進 強化拠点の構築 / 練習環境の整備・競技用具の充実 / 医学サポート体制の充実 ジュニア選手の発掘・育成システムの継承 / わたSHIGA輝く国スポ・障スポで活躍した選手の定着促進 / 持続的な指導者の確保 / オリンピック・パラリンピック候補選手の活動支援	◎国体・国スポ総合順位 【開催年 優勝、開催後 15位以内】 ◎日本代表強化指定選手数 (R5以降の累計) 【オリンピック：125人以上 パラリンピック：100人以上】
	7 地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承	(1) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等の開催 (2) レガシー創出・未来への継承	関係者の連携・協働による開催準備・大会運営 / スポーツ活動のきっかけにつながる情報発信 / WMG2027関西の開催準備 シンボルスポートの創出・継承 / 大会運営等のノウハウの継承 / スポーツを支える文化の定着 / スポーツを通じた共生社会の実現に向けた取組	◎成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率 【男女ともに70%以上】(※再掲) ◎スポーツを観戦した県民の割合(テレビ観戦などは除く)【40%以上】 ◎スポーツボランティア参加者数 【3,800人以上】(※再掲)

第5章 施策の総合的かつ計画的な推進のために必要な事項

県民自らの参加の推進 ・ 多様な主体の連携・協働による推進 ・ わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等の開催に向けた着実な準備 ・ データ分析に基づく計画の進捗状況の検証および反映

第3期滋賀県スポーツ推進計画に基づく施策の実施状況説明書（概要版）

（令和6年度実績）

第3期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成27年12月に公布、施行した滋賀県スポーツ推進条例に基づき、令和5年度から令和9年度までの5年間の計画期間とする「第3期滋賀県スポーツ推進計画」（以下「推進計画」という。）を令和5年3月に策定した。

- ・ 目指す姿 すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、感動を共有し、互いに連携・協働することを通じて、地域に誇りや愛着を持ち、健やかで豊かな生活を営むことができる共生社会の実現 －スポーツで滋賀を元気に！感動を未来へ！－
- ・ 基本方針 I 「健やかで豊かな生活」をつくる
 II 「活力のある地域」をつくる
 III 感動を未来へつなぐ
- ・ 政策 「人」「地域」「大規模大会」の視点から7つの施策を掲げる。
 - 1 生涯にわたるスポーツ活動の充実
 - 2 子どもの運動・スポーツ活動の充実
 - 3 障害のある人のスポーツ活動の充実
 - 4 スポーツを通じた連携・協働の推進
 - 5 スポーツを生かした地域の活性化
 - 6 わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等に向けた競技力向上と競技水準の定着
 - 7 地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承
- ・ 計画期間 令和5年度～令和9年度 （5年間）

■指標の達成状況

- ・ 達成率 【（実績-基準）／（目標-基準）×100】により算定
達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。
- ・ 評価 滋賀県基本構想実施計画（第2期）に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」、未集計は「N」として表している。ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、令和5年度は20%以上、令和6年度は40%以上のものを「A」、令和5年度は20%未満、令和6年度は40%未満のものを「B」として表している。

評価	令和5年度	令和6年度
A：年次目標達成	7項目	6項目
B：年次目標未達成	8項目	9項目
N：未集計	1項目	1項目
合計	16項目	16項目

※再掲の指標は除く

第3期滋賀県スポーツ推進計画における指標（最新数値入力）

評価	項目数	指標の内容	計画策定時 (基準値)	令和6年度 の状況	目標値 (令和9年度)	達成率 (%)
A 年次目標 達成	6	③公認スポーツ指導者数	3,294人 (R4)	4,788人	4,300人以上	100
		⑧県障害者スポーツ大会等の参加者数（延べ人数）	899人 (R3)	2,053人	1,600人以上	100
		⑩アスリートを採用した県内企業数	46社 (R3)	69社	64社以上	100
		⑪県内のプロスポーツチーム等との連携およびスポーツを通じた大学との連携の件数	60件	96件	90件以上	100
		⑬滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	42,174人 (R3)	203,548人	12万人以上	100
		⑭国体・国スポ総合順位	20位 (R4)	8位	開催年 優勝 開催後 15位 以内	63.2
B 年次目標 未達成	9	①成人（男・女）の週1回以上のスポーツ実施率	男性55.2% 女性48.6% (R3)	男性54.6% 女性46.4%	男女とも 70%以上	男性 0 女性 0
		②スポーツボランティア参加者数（延べ人数）	1,867人 (R3)	2,259人	3,800人以上	20.3
		④国体・国スポの監督に占める女性の割合	16% (R4)	14%	25%以上	0
		⑤県内の公共スポーツ施設（社会体育施設・都市公園等における運動施設）の利用者数	7,630,300人 (H30)	7,985,494人	880万人以上	30.4
		⑥「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合	【小5】 男子67.2% 女子50.1% 【中2】 男子58.8% 女子39.5% (R4)	【小5】 男子73.5% 女子50.3% 【中2】 男子59.0% 女子38.0%	【小5】 男子74.0% 女子54.0% 【中2】 男子62.0% 女子45.0%	【小5】 89.8 0 【中2】 0 0
		⑨公認障がい者スポーツ指導者数	345人 (R3)	396人	490人以上	35.2
		⑫スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	876万人 (R3)	943万人 (速報値)	1,200万人以上	20.7
		⑮日本代表強化指定選手数（令和5年度から令和9年度までの間の累計）	オリンピック： 21人 パラリンピック： 17人 (R3年度単年の指定選手数)	オリンピック： 38人 パラリンピック： 54人	オリンピック： 125人以上 パラリンピック： 100人以上	30.4 54.0
⑰スポーツを観戦した県民の割合（テレビ観戦などは除く）	21.5% (R4)	22.4%	40%以上	4.9		
N 未集計	1	⑦障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.4% (R4)	38.4% (R4)	50%以上	—

※滋賀県基本構想実施計画（第2期）に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」、未集計は「N」として表している。

ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、令和6年度が推進計画の2年目に当たることから、40%以上のものは「A」、40%未満のものは「B」として表している。

※再掲の指標は除いている。

【基本方針Ⅰ】「健やかで豊かな生活」をつくる

(政策1) 生涯にわたるスポーツ活動の充実

【主な指標の状況】

指標	策定時	R5	R6	R9 目標値	達成率	評価
①成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率	男性 55.2% 女性 48.6% (R3)	男性 54.9% 女性 49.3%	男性 54.6% 女性 46.4%	男女とも 70%以上	男性 0% 女性 0%	B B

【主な施策の実施状況】

年間を通じて「滋賀県民総スポーツの祭典」を開催し、多くの方々のスポーツを楽しむ機会を創出した。(151 種目を開催、参加者 36,571 人)

また、働き盛り世代のスポーツ実施率の向上に向けて、県内企業の従業員を対象に、びわこ成蹊スポーツ大学が考案した健康増進プログラムを2か月間実践し、体力や身体組成、活動量を継続的に測定して運動効果を検証した。(参加者数のべ 504 人)



(県内企業での健康増進プログラム)

【今後の方向性】

滋賀県民総スポーツの祭典がより一層多くの方々に参加していただける大会になるよう、令和6年度には、親子で参加できる「交流の部」を新設したところであるが、さらなる充実を図るため、市町や競技団体等で構成される滋賀県民スポーツ大会検討委員会等で議論を進める。

また、今後も女性や働き盛りの世代が気軽に体を動かせる環境づくりに取り組むとともに、県内のスポーツ関係団体等とも連携を図る。

指標	策定時	R5	R6	R9 目標値	達成率	評価
②スポーツボランティア参加者数(本県ボランティア登録システム利用)	1,867 人 (R3)	1,300 人	2,259 人	3,800 人以上	20.3%	B

【主な施策の実施状況】

県内で開催する大型スポーツイベント等に向け、スポーツボランティアを確保・育成する「ゲームコンダクターSHIGA」に、令和6年度末時点で5,429人に登録いただいている。

また、「しがスポーツボランティア協議会」においては、ボランティアに関する基礎知識や救命救急講習など多様なジャンルの研修をオンラインも活用しながら実施(研修実施回数9回)したほか、各種団体等が主催する大会やイベント等について活動の場を提供した。



(びわ湖マラソンボランティア)

【今後の方向性】

今後予定されている大規模スポーツイベントでボランティアとして活躍していただくために、研修等を通じてスポーツボランティアの養成を進めていくとともに、参加意欲の向上を図るため、多様なスポーツイベントでの活動機会の提供に取り組んでいく。

（施策3）障害のある人のスポーツ活動の充実

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R5	R6	R9 目標値	達成率	評価
⑧県障害者スポーツ大会等の参加者数	899 人 (R3)	1,796 人	2,053 人	1,600 人以上	100%	A
⑨公認障がい者スポーツ指導者数	345 人 (R3)	383 人	396 人	490 人以上	35.2%	B

【主な施策の実施状況】

障害者が身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブおよび市町障害者スポーツ協会に委託し、障害者スポーツ教室を実施した。(17 団体、参加者数のべ 4,210 人)

例年開催している滋賀県障害者スポーツ大会は、全国障害者スポーツ大会選考会の部として、個人7競技、団体3競技を開催(参加者数のべ 684 人)するとともに、誰もが気軽にスポーツに親しめるスポーツフェスタの部として5競技を実施した。(参加者数のべ 369 人)

また、障害者スポーツの認知度を向上させ、新たに障害者スポーツに取り組もうとする人や団体に対し、各競技の体験会や指導者講習会を開催し、指導者を育成することで長期的な裾野拡大と理解促進を図った。



(障害者スポーツ教室)

【今後の方向性】

総合型地域スポーツクラブや市町障害者スポーツ協会等を地域の活動拠点のひとつとして位置づけ、これまで障害者スポーツ教室に取り組んできたノウハウを共有し、障害者スポーツに取り組む団体を増やすほか、障害者スポーツに取り組める活動拠点の情報を地域の障害のある人に提供できる体制を整備する。

また、わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大会の開催に向けて、誰もが安心して安全にスポーツを楽しめる大会とするために、会場となる県立施設の点字ブロックや案内標示の増設などバリアフリー化の充実を図る。

【基本方針Ⅱ】「活力のある地域」をつくる

（施策4）スポーツを通じた連携・協働の推進

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R5	R6	R9 目標値	達成率	評価
⑩アスリートを採用した県内企業数	46 社 (R3)	60 社	69 社	64 社以上	100%	A

【主な施策の実施状況】

アスリートを採用した県内企業は令和5年度よりも9社増加し、69社となった。なお、県競技力向上対策本部が立ち上げた職業紹介所「SHIGAアスリートナビ」などを活用した結果、令和7年4月の入社選手計23人の就職につなげることができた。

県内プロスポーツチーム等との連携およびスポーツを通じた大学との連携は、スポーツ課および国スポ障スポ大会局を中心しつつ、人権や健康医療福祉分野等においても連携を進めることができています。

【今後の方向性】

成年選手の競技力の向上に向けて、引き続き、大学・企業等やスポーツ団体との連携・協働に取り組み、サポート体制を充実していく。特に、大学に対しては、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」に向けた選手の競技力向上やスタッフ・ボランティア協力に関する依頼を積極的に行い、連携を強化する。

また、プロスポーツチーム等とも密なコミュニケーションを図りつつ、新たな取組を模索していき、県民の運動・スポーツへの関心を高め、からだと心の健康づくりや運動・スポーツ実施率の向上につながる事業を展開していく。



(採用企業からの応援@ラグビー)

（施策5）スポーツを生かした地域の活性化

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R5	R6	R9 目標値	達成率	評価
⑬滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	42,174人 (R3)	120,900人	203,548人	12万人以上	100%	A

【主な施策の実施状況】

滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数は、滋賀レイクスターズ、東レアローズ滋賀およびレイラック滋賀FCがそれぞれ観客動員数を伸ばしたことにより20万人以上（前年度比約8万人増）となり、目標に到達した。

県内のプロスポーツチーム等（滋賀レイクスターズ、東レアローズ滋賀、レイラック滋賀FC）の試合会場において、わたSHIGA輝く国スポ・障スポの広告やのぼりの掲出を行い、両大会の周知と機運醸成を図った。

また、滋賀レイクスターズ、東レアローズ滋賀のホームゲームを本県の冠試合として開催し、国スポ・障スポの競技体験ブースを設けるなどしてPRを展開した。



(東レアローズホームゲーム)

【今後の方向性】

プロスポーツの盛り上げに一層取り組みながら、県内のプロスポーツチーム等の発信力を活用することで、県内・県外から観戦客を呼び込み、スポーツ振興を図るとともに地域活性化の一助となるように努めていく。

【基本方針Ⅲ】感動を未来へつなぐ

（施策6）わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等に向けた競技力向上と競技水準の定着

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R5	R6	R9 目標	達成率	評価
⑭国体・国スポ総合順位	20 位 (R4)	17 位	8 位	本県開催年度 (R7)： 優勝 本県開催後： 15 位以内	63.2%	B
⑮日本代表強化指定選手数 (令和5年度(2023年度)以降の累計)	オリンピック： 21 人	18 人	38 人	125 人以上	30.4%	B
	パラリンピック： 17 人 (R3年度単年の 指定選手数)	28 人	54 人	100 人以上	54.0%	A

【主な施策の実施状況】

第 78 回国民スポーツ大会の総合順位は前年を上回る成績を収めることができたものの、3 位以内という目標には届かなかった。

スポーツ特別指導員やふるさと選手など新たに本県選手として出場した成年選手の活躍や 2025 年のターゲットエイジ世代のみならず、延期の影響を受けた 2024 ターゲットエイジの少年選手の活躍により、全種別において前回大会を大きく上回る競技得点を獲得できたことなど、強化事業の成果は着実に現れている。

【今後の方向性】

わたSHIGA輝く国スポに向けた「成年選手確保計画」により獲得した成年選手や県代表基軸チーム、強化指定選手として認定された少年選手が、質・量の伴った強化事業を円滑に行うことができるよう、大学、民間企業、学校、県スポーツ協会等、選手の所属先となる各主体との連携をさらに深め、目標である総合優勝・天皇杯獲得につなげる。加えて、会場市町等が実施するPRイベントへのトップアスリートの参加支援や各種メディア・SNSでの選手の活躍情報の事前発信を通じ、本県代表選手が地元住民・児童・生徒の応援のもと競技に臨める機運の醸成に努める。



(第 78 回国民スポーツ大会開会式@佐賀)

第3期滋賀県スポーツ推進計画 に基づく施策の実施状況説明書

1 第3期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成27年12月に公布、施行した滋賀県スポーツ推進条例（以下「条例」という。）に基づき、令和5年度から令和9年度までの5年間を計画期間とする「第3期滋賀県スポーツ推進計画」（以下「推進計画」という。）を令和5年3月に策定した。

(1) 目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、感動を共有し、互いに連携・協働することを通じて、地域に誇りや愛着を持ち、健やかで豊かな生活を営むことができる共生社会の実現
ースポーツで滋賀を元気に！感動を未来へ！ー

(2) 基本方針

- I 「健やかで豊かな生活」をつくる
- II 「活力のある地域」をつくる
- III 感動を未来へつなぐ

(3) 施策

「人」「地域」「大規模大会」の視点から7つの施策を掲げる。

- 1 生涯にわたるスポーツ活動の充実
- 2 子どもの運動・スポーツ活動の充実
- 3 障害のある人のスポーツ活動の充実
- 4 スポーツを通じた連携・協働の推進
- 5 スポーツを生かした地域の活性化
- 6 わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等に向けた競技力向上と競技水準の定着
- 7 地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承

2 進行管理

(1) 達成率の算出方法について

推進計画策定時の現状を基準にして、目標数値に対する令和6年度の達成率を表している。

【 $(\text{実績} - \text{基準}) / (\text{目標} - \text{基準}) \times 100$ 】

※達成率がマイナスとなったものについては「0%」、100を超えたものについては「100%」としている。

(2) 評価について

滋賀県基本構想実施計画（第2期）に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」、未集計は「N」として表している。

ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、令和6年度が推進計画の2年目に当たることから、40%以上のものは「A」、40%未満のものは「B」として表している。

3 施策の実施状況

(基本方針 I) 「健やかで豊かな生活」をつくる

(施策 1) 生涯にわたるスポーツ活動の充実

【施策目標】

年齢や性別、障害の有無を問わず、全ての県民が「いつでも、どこでも、いつまでも」自分らしくスポーツを楽しめるよう、機会の創出・拡充や環境の整備を図る。

指 標	計画 策定時	現 状				目標	達成 率 (%)	評価	
		R5	R6	R7	R8	R9			
I 「健やかで豊かな生活」をつくる									
指 標	1 生涯にわたるスポーツ活動の充実								
①	成人（男・女）の週 1回以上のスポーツ実 施率	男性 55.2% 女性 48.6% (ともにR3)	54.9%	54.6%	-	-	70%以上 70%以上	0 0	B B
②	スポーツボランティア参加者数（本県ボ ランティア登録シス テム利用）	1,867人 (R3)	1,300人	2,259人	-	-	3,800人 以上	20.3	B
③	公認スポーツ指導者 数	3,294人 (R4)	3,997人	4,788人	-	-	4,300人 以上	100	A
④	国体・国スポの監督に 占める女性の割合	16% (R4)	12%	14%	-	-	25% 以上	0	B
⑤	県内の公共スポーツ施 設（社会体育施設・都 市公園等における運動 施設）の利用者数	7,630,300人 (H30) ※コロナ禍前	7,470, 932人	7,985, 494人	-	-	880万人 以上	30.4	B

【施策の総括】

成人の週1回以上のスポーツ実施率は長期的にみると増加傾向にあるものの、令和6年度実績は、令和3年度の基準値よりも男性、女性ともに低下した。また、年齢別では20歳台から40歳台までの世代の実施率が低くなっている。

スポーツボランティア参加者数については、びわ湖マラソンのボランティア参加者が増加したことにより、令和5年度と比較して約1,000人の増となった。なお、県外からの参加者数は147人であった。

公認スポーツ指導者数については、順調に増加しており、スポーツ活動の充実や安全かつ効率的にスポーツに取り組む体制が充実してきている。

国スポの監督に占める女性の割合については、目標値を下回っているものの、前年度よりも増加した。

県内の公共スポーツ施設（社会体育施設・都市公園等における運動施設）の利用者数については、新設や改修が完了した施設が多く、大会等での利用も多かったため増加した。

生涯にわたるスポーツ活動の充実に向けて、県民の誰もが生涯にわたり自分らしくスポーツに取り組むことができるよう、「する」「みる」「支える」の各場面でスポーツに親しむ機会の創出・拡大や環境整備を進めていく。

【施策の実施状況および今後の方向性】

(1) 県民総スポーツの機会づくりの推進（条例第10条、第11条）

ア 施策の実施状況

県民の誰もが参加できる「滋賀県民総スポーツの祭典」は、参加者の応募状況等により一部競技が中止となったが、全7部門164種目中151種目が開催された。全体の参加者数は前年度から増加となる36,571人であった。（昨年度参加者数35,682人）

イ 施策の今後の方向性

滋賀県民総スポーツの祭典をより一層多くの方々に参加していただける大会にしていく必要があるが、参加者の固定化等が課題である。より多くの方が参加できるよう、令和6年度には、親子で参加できる「交流の部」を新設したところであるが、さらなる充実を図るため、市町や競技団体等で構成される滋賀県民スポーツ大会検討委員会等で議論を進める。

(2) 女性や働き盛りの世代に対する参加促進（条例第11条）

ア 施策の実施状況

働き盛り世代のスポーツ実施率の向上に向けて、県内企業の従業員を対象に、びわこ成蹊スポーツ大学が考案した健康増進プログラムを2か月間実践し、体力や身体組成、活動量を継続的に測定して運動効果を検証した。（参加者数のべ504人）

女性のスポーツ活動への参加促進に向けては、産科・婦人科系スポーツドクターによる女性アスリート・指導者対象の講習会を実施するとともに、育児期の女性選手7人、女性指導者1人に対し国民スポーツ大会や強化練習会の参加時における託児サービス料等を支援した。

イ 施策の今後の方向性

今後も女性や働き盛りの世代が気軽に体を動かせる環境づくりに取り組むとともに、県内のスポーツ関係団体等とも連携を図る。

(3) 健康寿命延伸に向けた取組の推進（条例第12条）

ア 施策の実施状況

運動・スポーツに取り組むきっかけづくりや習慣化を目的として健康推進アプリ「BIWA-TEKU」を活用し、健康イベントの登録、企業や庁内関係各課と連携し観光資源を活用したスタンプラリーコースを作成した。

第36回全国健康福祉祭とっとり大会（ねんりんピックはばたけ鳥取2024）への選手団派遣や予選大会の開催を支援し、高齢者等の健康づくり・生きがいつくりの活動を推進した。

イ 施策の今後の方向性

健康推進アプリ「BIWA-TEKU」の登録者数は年々増加しており、アプリをきっかけにウォーキングの習慣を獲得できるよう、継続的にイベントと連携した広報や魅力的なコースづくりに取り組む。

高齢者を中心とする健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図ることを目的に開催される第37回全国健康福祉祭ぎふ大会（ねんりんピック岐阜2025）への選手団派遣や予選大会の開催に対し、引き続き支援を行う。

(4) スポーツの持つ多様な価値の発信（条例第11条、第21条）

ア 施策の実施状況

スポーツに関する情報を総合的に発信するサイト「しがスポーツナビ！」に、本県ゆかりのアスリートのインタビューや対談企画、スポーツイベント等を紹介する記事・動画を掲載し、SNS等も活用して滋賀のスポーツの魅力を発信した。特設ページも開設し、パリオリンピック・パラリンピックや県内プロスポーツチーム等の情報発信を強化した。

また、スポーツで活躍された方を表彰する「滋賀県スポーツ大賞」を実施するとともに、多年にわたりスポーツの普及や選手育成に成果をあげた方を表彰する「滋賀県スポーツ顕彰」を実施し、計156者に対して表彰を行い、その功績を広く発信した。

イ 施策の今後の方向性

サイトやSNSで話題性の高い情報をタイムリーに発信するほか、イベントカレンダーで県内プロスポーツチームの試合や県後援の各種大会情報を網羅してスポーツを「する」「みる」「支える」ための情報を迅速かつ柔軟に届ける。

また、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」特設ページを開設するとともに、障害者スポーツのページやコンテンツページの改修により情報発信を強化し、サイトの魅力を向上させる。

(5) トップアスリートとの交流機会の創出（条例第11条）

ア 施策の実施状況

現在、55人（団体）のトップアスリートに「しがスポーツ大使」に就任いただいております。

各種団体や学校などがスポーツ教室の特別講師や陸上イベントのゲストランナー、人権研修会の講話者等として「しがスポーツ大使」を招聘する取組に対して費用補助を行うことで、県民との交流を促した。（実施件数54件、参加者数7,702人）

イ 施策の今後の方向性

わたSHIGA輝く国スポ・障スポの開催を控え、スポーツをさらに盛り上げるため、スポーツ大使の広報を行いながら、積極的に交流機会の増加を図っていく。

(6) スポーツイベント等におけるボランティア活動の促進（条例第18条）

ア 施策の実施状況

県内で開催する大型スポーツイベント等に向け、スポーツボランティアを確保・育成する「ゲームコンダクターSHIGA」に、令和6年度末時点で5,429人に登録をいただいている。（昨年度末の登録者数4,609人）

スポーツボランティア文化の定着を図ることを目的に、行政やプロスポーツ団体等で構成された「しがスポーツボランティア協議会」がボランティアに関する基礎知識や救命救急講習など多様なジャンルの研修を実施（研修実施回数9回）したほか、各種団体等が主催する大会やイベント等での活動機会を提供した。（活動者数のべ2,259人）

イ 施策の今後の方向性

今後予定されている大規模スポーツイベントでボランティアとして活躍していただくために、研修等を通じてスポーツボランティアの養成を進めていくとともに、参加意欲の向上を図るため、多様なスポーツイベントでの活動機会の提供に取り組んでいく。

(7) 総合型地域スポーツクラブの育成（条例第17条）

ア 施策の実施状況

一人ひとりの興味関心や競技レベルに合わせて様々なスポーツに触れる機会を提供する地域密着型の総合型地域スポーツクラブを育成・支援するためのアシスタントマネージャー研修会を開催したほか、クラブアドバイザーをクラブに派遣し、運営や活動に対して助言を行った。

また、令和4年度から総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度が始まり、登録申請を促すことで県内55クラブのうち30クラブが登録された。

イ 施策の今後の方向性

総合型地域スポーツクラブの自主的かつ自立的な運営に向けて、後継者の確保や指導者の育成を図る。また、総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の登録申請をより一層促すとともに、学校部活動の地域展開等に関する情報共有を進める。

(8) 指導者の育成等（条例第19条）

ア 施策の実施状況

公認スポーツ指導者については、スタートコーチ養成講座等を開催したことにより、公益財団法人日本スポーツ協会による公認スポーツ指導者資格の取得者数は年々増加してお

り、令和6年度末の登録者数は4,788人となった。（昨年度末の登録者数3,997人）

また、競技力の向上に向けた強化拠点校に優秀指導者を派遣する制度については、対象校を13校14部とし、専門的な競技指導のできる指導者の配置を行い、継続して選手への指導ができる体制を整備したほか、わたSHIGA輝く国スポに向け競技団体等が実施する強化事業に、高い見識と指導力を持つ優秀な指導者を招聘し、指導実践を通して選手の競技力向上、県内指導者の資質向上を図った。

あわせて、競技団体の指導力と組織力強化を図るため、各競技団体のプロジェクトチームリーダーを集め、専門の講師による研修会を開催した。

イ 施策の今後の方向性

スポーツ指導者の確保や競技力の維持向上を目的として、引き続き公認スポーツ指導者数の増加を図るとともに、国民スポーツ大会で選手として活躍したアスリートが、指導者として滋賀県で活動を続けられる条件整備に取り組む。

あわせて、女性アスリートや女性指導者が直面する課題の解決に向けた事業を引き続き実施し、大会での活躍や指導者としての資質向上につなげる。

(9) 公共スポーツ施設の充実・活用（条例第20条）

ア 施策の実施状況

わたSHIGA輝く国スポ・障スポに向けて、会場となる施設の整備を進めた。主会場となる彦根総合スポーツ公園の再整備については、大会後に整備する施設を除いて令和7年3月までに整備が完了しており、第1種陸上競技場については「平和堂HATOスタジアム」、第3種陸上競技場については「平和堂げんきっこフィールド」として、いずれも令和5年4月から供用を開始した。

また、アリーナ整備については、令和4年9月に整備が完了し、「滋賀ダイハツアリーナ」として令和4年12月から供用を開始した。

さらに、草津市に対して県が財政支援した草津市立プールの整備については、「インフロンニア草津アクアティクスセンター」として令和6年8月に供用を開始した。

イ 施策の今後の方向性

わたSHIGA輝く国スポ・障スポの競技会場としてだけでなく、県民のスポーツ・健康づくりの中核施設となるよう、また、大規模大会の誘致やプロスポーツ等の活用により地域のにぎわい創りに向け、周辺環境等にも配慮しながら施設の活用を進めていく。

まず、大規模大会の誘致では、近隣の公園や市の施設等とも連携し、様々な大会が継続的に開催されるよう、県内競技団体と歩調を合わせながら県も積極的に誘致を進める。

次に、プロスポーツ等の活用では、プロチームに加えアマチュア団体との連携も強力に進め、プロ・アマ問わずスポーツ全体を盛り上げていけるよう、周辺市町、企業、自治会、商店街など地域と一体となって応援する環境づくりに取り組む。

さらに、県立スポーツ施設のネーミングライツパートナーや広告事業等を活用した歳入

確保を図っていく。

(10) ICTの活用

ア 施策の実施状況

ICTを活用した施設管理業務の効率化に向けた取組として、職員が行っていた予約管理業務のうち、利用形態がシンプルな柳が崎ヨットハーバーの陸置場の利用申し込みでのシステム構築を進めた。

イ 施策の今後の方向性

システム構築までは完了したが、現在運用方法等について調整中であることから、引き続き運用開始に向け調整を進める。

(施策2) 子どもの運動・スポーツ活動の充実

【施策目標】

全ての子どもが大人になっても楽しめるスポーツに出会い、体を動かす楽しさを実感し、継続して取り組める環境をつくる。

指 標	計画策定時	現 状				目標	達成率(%)	評価	
		R5	R6	R7	R8	R9			
I 「健やかで豊かな生活」をつくる									
指 標	2 子どもの運動・スポーツ活動の充実								
⑥	「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合	【小学5年生】 男子69.1%	71.7%	73.5%	-	-	74.0% 以上	89.8	A
	【小学5年生】 【中学2年生】	女子51.8% (ともにR4)	50.3%	50.3%	-	-	54.0% 以上	0	B
		【中学2年生】 男子59.8%	59.8%	59.0%	-	-	62.0% 以上	0	B
		女子38.2% (ともにR4)	36.3%	38.0%	-	-	45.0% 以上	0	B

【施策の総括】

「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比較し、小学5年生男子と中学2年生女子は増加したものの、小学5年生女子は横ばい、中学2年生男子は減少した。また、「体育が楽しい」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比較し、

小・中学校ともに増加した。

児童生徒が「運動・スポーツは楽しい」と感じるよう、青少年の運動・スポーツ機会の提供や体育の授業改善を行い、「運動やスポーツをすることが好き」な児童生徒の育成に努める。

【施策の実施状況および今後の方向性】

(1) 子どもの運動（遊び）・スポーツ活動の機会の拡大（条例第13条、第14条）

ア 施策の実施状況

幼稚園・認定こども園等や県内市町で行われるイベント等に運動遊び指導者（プレイリーダー）を派遣し、滋賀県が作成した運動遊びプログラム「P I C」を通じて、運動遊びの重要性や魅力を伝え、子どもたちが発達段階に必要な「動き」を獲得することによる将来の運動能力の向上とスポーツ振興を図った。

令和6年度滋賀県民総スポーツの祭典県民スポーツ大会（交流の部）の親子スポーツフェスタ2024において「P I C」を活用したプログラムを提供し、延べ447人が参加した。

また、県内小学校児童が体育の授業以外の時間でも運動に取り組めるよう、共通の運動種目に取り組んだ記録をホームページに掲載し、活動を活性化しながら「湖っ子チャレンジランキング」を実施した。活用喚起を図りつつ、情報へのアクセスのしやすさや記録の更新頻度を高めたことにより、前年度よりも参加者数が増加した。

イ 施策の今後の方向性

「P I C」を様々なイベントで普及啓発し、多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育めるよう取組を進め、P I Cプログラムを総合型地域スポーツクラブの活動内容に組み込むよう努める。

また、子どもの体力向上に向け、「湖っ子チャレンジランキング」に多くの児童が取り組みやすくなるよう、ペアや個人でも取り組み、準備が簡単で記録をすぐに確認できる運動種目を設定して、市町教育委員会を通じた活用喚起等によりさらに取組を活性化して、運動の習慣化につながる参加者数の増加を目指す。

(2) スポーツ少年団の育成（条例第13条）

ア 施策の実施状況

県スポーツ協会が主催するスポーツ少年団のリーダーを育成する「ジュニア・リーダースクール」やスポーツ少年団員の交流活動を推進する「スポーツ少年大会」、「スタートコーチ養成講習会」の開催を支援し、地域のスポーツ少年団で模範となって活動する団員とスポーツ少年団の理念を習得した指導者を育成した。

イ 施策の今後の方向性

スポーツ少年団の指導に当たり、公認のスポーツ指導者の資格が必要となったため、引き続き、県スポーツ協会が実施するスポーツ少年団の指導者養成に対して支援を行う。また、スポーツ少年団の活動が勝利至上主義から脱却し、自発的な運動から得られる「楽し

さ」を享受できる機会となるよう、県スポーツ協会等と連携し地域に根差したスポーツ少年団の育成と活動の活性化を図る。

(3) 小・中学校における体育・保健体育の授業改善（条例第14条）

ア 施策の実施状況

小学校では、県小学校体育連盟体力向上専門部と連携して、授業実践交流研修会を行ったほか、体育科を研究教科としない教員を対象とした指導力向上のための研修を実施し、授業の充実を図った。

中学校では、学習指導要領に即した授業改善を推進するとともに、授業改善の枠組みとして作成した「滋賀モデル（单元ごとの指導計画等）」を活用し、運動への愛好的な態度の育成と体力の向上を重視した授業となるよう、授業者への助言等を行った。

イ 施策の今後の方向性

体育の授業改善サポートや小学校教員対象の授業実践交流研修会等を引き続き実施するほか、幼稚園・こども園・保育所・小学校等の教員・保育士を対象とした指導力向上のための研修会に大学教授を招聘し、幼児期から児童期への多様な動きを身につける「運動遊び」の系統性を踏まえた内容の実技研修を行うことにより、授業改善を図る。

中学校では、学習指導の質の向上と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりができるよう、学校訪問を行い、授業の分析と改善をサポートしていく。

(4) 中学・高校生の運動機会の充実（条例第14条）

ア 施策の実施状況

運動部活動については、日々の活動をはじめ、滋賀県中学校体育連盟主催の大会、滋賀県高等学校体育連盟主催の大会、また、全国高等学校野球選手権滋賀大会を予定どおり開催した。

部活動指導員（運動部）を市町立中学校に117人（65校）、県立学校に36人（25校）配置し、部活動の指導体制の充実を図った。

また、運動部活動等に関わる指導者に、体罰防止および合理的・科学的指導方法の普及を目的とした研修会を開催した。（参加者数177人）

中学校部活動の地域連携・地域展開については、本県協議会での意見や県内市町の意向調査の結果を踏まえ、令和7年3月に休日部活動の「地域連携」を中心として部活動改革を推進するという本県の考え方を示した。

令和6年度における国の実証事業（委託事業）では、県内10市町（大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、湖南市、東近江市、米原市、竜王町、豊郷町、多賀町）において地域の実情に応じた実証事業が実施され、地域展開等の課題検証を行った。

イ 施策の今後の方向性

中学校部活動の地域連携・地域展開については、少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツに親しむ機会を確保・充実することができるよう、学校・市町教

育委員会・地域・競技団体・生徒・保護者等関係者の声を丁寧にヒアリングし、地域の実情に応じた段階的かつ現実的な取組を支援・促進する。

また、部活動指導員（運動部）の配置については、生徒が合理的かつ科学的な指導を受ける効果や、教員（顧問）の働き方改革への寄与に加え、今後、地域との連携による活動展開が期待されることから、学校や市町教育委員会の意向を踏まえて配置促進を図るとともに、国の施策・方針のほか、各市町の進捗状況や学校現場のニーズを踏まえ、柔軟かつ計画的な対策を検討していく。

あわせて、教員（顧問）や部活動指導員等を対象に、体罰・ハラスメントの根絶や中高生指導に必要な視点をテーマにした研修を体系化し、継続的に実施する。

（施策3）障害のある人のスポーツ活動の充実

【施策目標】

障害のある人が気軽にスポーツを楽しみ、継続して取り組める環境をつくる。

指 標	計画 策定時	現 状				目標	達成 率(%)	評価	
		R5	R6	R7	R8	R9			
I 「健やかで豊かな生活」をつくる									
指 標	3 障害のある人のスポーツ活動の充実								
⑦	障害者の週1回以上の スポーツ実施率	38.4% (R4)	-	-	-	-	50% 以上	-	N
⑧	県障害者スポーツ大会 等の参加者数	899人 (R3)	1,796人	2,053人	-	-	1,600人 以上	100	A
⑨	公認障がい者スポーツ 指導者数	345人 (R3)	383人	396人	-	-	490人 以上	35.2	B

【施策の総括】

障害者の週1回以上のスポーツ実施率については、スポーツ推進計画の策定時と中間年、最終年に調査を実施することとしており、令和7年度に調査を実施する。

県障害者スポーツ大会等の参加者数については、障害者スポーツ大会に1,053人、スペシャルスポーツの広場に1,000人の参加者があり、合計で2,053人であった。

公認障がい者スポーツ指導者数については、県障害者スポーツ協会や県内大学で講習会を開

催し、着実に指導者数を増加させることができています。

障害のある人のスポーツ活動の充実に向けて、わたSHIGA輝く障スポの盛り上がりも生かしながら、実施率の向上ならびに認知度の向上に取り組んでいく。

【施策の実施状況および今後の方向性】

(1) 障害のある人の参加機会の拡大と定着（条例第15条）

ア 施策の実施状況

障害者が身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブおよび市町障害者スポーツ協会に委託し、障害者スポーツ教室を実施した。（17団体、参加者数のべ4,210人）

例年開催している滋賀県障害者スポーツ大会は、全国障害者スポーツ大会選考会の部として、個人7競技、団体3競技を開催（参加者数のべ684人）するとともに、誰もが気軽にスポーツに親しめるスポーツフェスタの部として5競技を実施（参加者数のべ369人）した。

イ 施策の今後の方向性

総合型地域スポーツクラブや市町障害者スポーツ協会等を地域の活動拠点のひとつとして位置づけ、これまで障害者スポーツ教室に取り組んできたノウハウを共有することで、障害者スポーツに取り組む団体を増やすほか、障害者スポーツに取り組める活動拠点の情報を地域の障害のある人に提供できる体制を整備する。

障害者スポーツの体験会や施設管理者等を集めた講習会などを開催し、障害者スポーツの裾野を拡大するとともに、中学校部活動の地域連携・地域展開を見据え、特別支援学校や福祉事業所との連携体制の構築・強化を図る。

また、わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大会の開催に向けて、誰もが安心して安全にスポーツを楽しめる大会とするために、会場となる県立施設の点字ブロックや案内標示の増設などバリアフリー化の充実を図る。

(2) 障害者スポーツの理解促進（条例第15条）

ア 施策の実施状況

身近な地域で障害者スポーツを体験できる「スペシャルスポーツの広場」を、県内6市（東近江市、高島市、長浜市、彦根市、栗東市、大津市）で計11回開催し、1,000人の参加があり、多くの方が障害者スポーツを体験した。（昨年度12回開催、参加者数911人）

また、障害者スポーツの認知度を向上させ、新たに障害者スポーツに取り組もうとする人や団体に対し、各競技の体験会や指導者講習会を開催した。指導者を育成することで長期的な裾野拡大と理解促進を図った。

イ 施策の今後の方向性

障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指す

すため、引き続き、障害者スポーツへの知見を有する団体に事業を委託し、事業を充実させるとともに、総合型地域スポーツクラブ等との連携を強化し、広域で障害者スポーツの理解促進が図れるよう体制を整える。

(3) 競技を志向する人への情報提供（条例第15条）

ア 施策の実施状況

パラリンピックやデフリンピックに出場するなど、活躍が期待される優秀な選手に対し必要な情報提供を行うとともに、当該選手の強化活動を支援することにより、競技水準の向上を図った。（オリンピック・パラリンピック支援事業のパラリンピック等支援選手26人）

イ 施策の今後の方向性

競技としてスポーツに取り組むことを希望する人がより良い環境の中で競技を継続できるよう、引き続き支援を実施していく。

(基本方針Ⅱ) 「活力のある地域」をつくる

(施策4) スポーツを通じた連携・協働の推進

【施策目標】

県民や大学、企業、地域、スポーツ団体等の多様な個人・団体が、スポーツを通じて主体的に連携・協働する。

指 標	計画 策定時	現 状				目 標	達成 率(%)	評 価	
		R5	R6	R7	R8	R9			
Ⅱ 「活力のある地域」をつくる									
指 標	4 スポーツを通じた連携・協働の推進								
⑩	アスリートを採用した県内 企業数	46社 (R3)	60社	68社	-	-	64社 以上	100	A
⑪	県内プロスポーツチーム等 との連携およびスポーツを 通じた大学との連携の件数	60件 (R3)	98件	96件	-	-	90件 以上	100	A

【施策の総括】

アスリートを採用した県内企業は昨年度（令和5年度）よりも8社増加し、68社となった。なお、県競技力向上対策本部が立ち上げた職業紹介所「SHIGAアスリートナビ」などの活

用により、令和7年4月の入社選手計23人の就職につなげることができた。

県内プロスポーツチーム等との連携およびスポーツを通じた大学との連携の件数は、スポーツ課および国スポ・障スポ大会局を中心にしつつ、人権や健康医療福祉分野等においても連携を進めることができています。

スポーツを通じた連携・協働の推進においては、プロスポーツチームの発信力の高さや大学のスポーツ分野の人材やノウハウを生かすことで、スポーツの推進だけでなく、各種行政分野の振興につなげていく。

【施策の実施状況および今後の方向性】

(1) 地域とスポーツ団体等との連携・協働の推進（条例第11条、第17条）

ア 施策の実施状況

県スポーツ協会、県障害者スポーツ協会、各市町、各競技団体等と連携して、年齢や性別、障害の有無に関わらず誰もが参加できる「滋賀県民総スポーツの祭典」を通年開催した。（参加者数36,571人）

市町のスポーツ推進委員と連携しながら、ニュースポーツの体験やスポーツの取組事例の発表等の各種スポーツ推進に係る事業を実施した。

また、甲西文化ホール（湖南市）で滋賀県スポーツ推進委員研究会を開催し、シンポジウムや事例研修等を通じて推進委員の資質向上に努めるとともに各市町から集まったスポーツ推進委員との交流を図った。（参加者数286人）

イ 施策の今後の方向性

滋賀県民総スポーツの祭典にさらに多くの人が参加できるよう、新種目の追加等、内容の充実を図るとともに、さらなる取組について、市町や競技団体等で構成される滋賀県民スポーツ大会検討委員会等で議論を進める。

また、スポーツ推進委員の人材確保と活動の活発化に向けて、市町との連携を強化していく。

(2) 大学や企業、プロスポーツチーム等との連携・協働の推進（条例第17条）

ア 施策の実施状況

高い競技力を有する企業や大学等を指定（17団体27競技）して強化事業を実施し、第78回国民スポーツ大会（佐賀国スポ）でもローイングの実業団チームや馬術のクラブチームが大活躍した。

また、医科学サポートスタッフを競技団体が実施する強化練習会等に派遣し、滋賀県選手団の競技力向上に貢献した。

わたSHIGA輝く障スポに向け不足するスタッフへの学生の参画について、県内大学に対し協力依頼を行い、競技別練習会への接続を行った。

県内プロスポーツチーム等との連携を図り、子どもを対象にスポーツ教室を実施した。

また、滋賀レイクスターズ、東レアローズ滋賀のホームゲームを県の冠試合として開催し、その集客力を生かして、わたSHIGA輝く国スポ・障スポをPRした。

イ 施策の今後の方向性

成年選手の競技力向上に向けて、引き続き、大学・企業等やスポーツ団体との連携に取り組む、サポート体制を充実していく。特に、大学に対しては、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」に向けた選手の競技力向上やスタッフ・ボランティア協力に関する依頼を積極的に行い、連携を強化する。

加えて、わたSHIGA輝く国スポ本番における、代表選手が各自のパフォーマンスを最大限に発揮するための心身のコンディショニングやドーピング防止に向け、医科学サポートスタッフによる指導機会等のさらなる充実を図る。

また、プロスポーツチーム等とも密なコミュニケーションを図りつつ、新たな取組を模索していき、県民の運動・スポーツへの関心を高め、からだと心の健康づくりや運動・スポーツ実施率の向上につながる事業を展開していく。

(施策5) スポーツを生かした地域の活性化

【施策目標】

琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や観光資源を生かしたスポーツの振興を通じて、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。

指 標	計画 策定時	現 状				目 標 R9	達成 率(%)	評 価	
		R5	R6	R7	R8				
II 「活力のある地域」をつくる									
指 標	5 スポーツを生かした地域の活性化								
⑫	スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	876万人 (R3)	992万人	943万人 (速報 値)	-	-	1,200万人 以上	20.7	B
⑬	滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	42,174人 (R3)	120,900 人	203,548 人	-	-	12万人 以上	100	A

【施策の総括】

スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数は令和3年の基準値よりも67万人増加した。なお、琵琶湖一周サイクリング体験者数(推計値)は令和5年比で7%減の11.9万人となったが、過去2番目に多い数となった。また、経済波及効果(試算値)は、前年比25%増

の約21億2千万円となり、大きく増加した。

滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数は、滋賀レイクスターズ、東レアローズ滋賀およびレイラック滋賀FCがそれぞれ観客動員数を伸ばしたことにより20万人以上（前年度比約8万人増）となり、目標に到達した。

スポーツを生かした地域の活性化に向けて、ビワイチをはじめ滋賀の自然環境を生かしたスポーツやプロスポーツチームを盛り上げることにより、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげていく。

【施策の実施状況および今後の方向性】

(1) 豊かな自然環境や文化財等の観光資源を活用したスポーツの推進（条例第16条、第17条）

ア 施策の実施状況

びわ湖毎日マラソンとびわ湖レイクサイドマラソンの伝統を引き継いだ市民マラソン大会「びわ湖マラソン」の第3回大会を開催し、県内外から多くの選手に参加いただいた。

（参加者数7,190人）

また、関西みらいローイングセンター（県立琵琶湖漕艇場）において朝日レガッタを開催した。（参加者数1,054人）

なお、希望が丘文化公園にて開催を予定していたBIWAKOクロカンについては、積雪により中止となった。

イ 施策の今後の方向性

びわ湖マラソンについては、琵琶湖岸を走るコースや滋賀県の特産品の提供により、県内外から参加する多くのランナーの方々にスポーツや滋賀の魅力を発信しながら、地元地域の皆様からもランナーの皆様からも愛される大会として定着を図っていく。

また、朝日レガッタについては本県を代表する伝統ある大会として湖上スポーツの普及と振興に取り組み、BIWAKOクロカンについては希望が丘文化公園の競技環境を生かし、参加者のさらなる拡大に向けて内容の工夫に取り組むなど、さらに充実した大会にしていく。

(2) スポーツツーリズムの推進（条例第16条、第17条）

ア 施策の実施状況

サイクリングについては走行距離や訪れた施設に応じてポイントを貯める機能をアプリに実装し、貯めたポイントに応じて抽選で特典を付与する「サイクリングマイレージ」やデジタルスタンプラリー等の取組により、体験者数の増加や県内の周遊促進を図った。

イ 施策の今後の方向性

琵琶湖を一周する「ビワイチ」ルートだけでなく、県内各地の観光地や景勝地などを周遊する「ビワイチ・プラス」ルートをより一層PRするとともに、家族連れやサイクリング初心者を対象としたイベント等を通じて、誰でも、いつでも、どこでも楽しめる「ビワ

イチ」を目指す。

(3) スポーツイベント等を生かした地域の活性化（条例第16条、第17条）

ア 施策の実施状況

「びわ湖マラソン」の第3回大会を開催し、琵琶湖岸を走るコースや滋賀県の特産品の提供により、県内外から参加する多くのランナーの方々に滋賀の魅力を発信した。

第32回全国中学校駅伝大会を希望が丘文化公園で開催し、各都道府県代表チーム参加のもと、学校教育の一環として心身ともに健康な生徒の育成および相互の親睦等を図るとともに本県の魅力発信につなげた。（参加校数男女各48校、関係者・応援者等約15,000人）

また、新型コロナウイルス感染症の影響により2027年に延期となったワールドマスターズゲームズ2027関西の開催に向けて、改めて大会機運の醸成を図った。

イ 施策の今後の方向性

びわ湖マラソンについては、参加者向けオプションツアーや宿泊プランの商品化、外国人参加者の募集などにより、滋賀の魅力発信にも取り組みながら、さらに充実した大会にしていく。

全国中学校駅伝大会については、日本中学校体育連盟が主催する競技大会の趣旨を踏まえつつ、滋賀県や開催市の魅力発信にも取り組みながら、今後も全国から集まる選手や応援者を温かく迎えらるる大会にしていく。

ワールドマスターズゲームズ2027関西については、開催市実行委員会や競技団体の状況を踏まえて課題を整理するとともに、大会の機運醸成に向け組織委員会等と連携して効果的な広報を展開する。

(4) プロスポーツチーム等を生かした地域の活性化（条例第11条、第17条）

ア 施策の実施状況

県内のプロスポーツチーム等（滋賀レイクスターズ、東レアローズ滋賀、レイラック滋賀FC）の試合会場において、わたSHIGA輝く国スポ・障スポの広告やのぼりの掲出を行い、両大会の周知と機運醸成を図った。

また、滋賀レイクスターズ、東レアローズ滋賀のホームゲームを本県の冠試合として開催し、国スポ・障スポの競技体験ブースを設けるなどしてPRを展開した。

イ 施策の今後の方向性

プロスポーツの盛り上げに一層取り組みながら、県内のプロスポーツチーム等の発信力を活用することで、県内・県外から観戦客を呼び込み、スポーツ振興を図るとともに地域活性化の一助となるように努めていく。

（基本方針Ⅲ）感動を未来へつなぐ

（施策6）わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等に向けた競技力向上と競技水準の定着

【施策目標】

「選手の育成・強化」「指導体制の充実」「強化拠点の構築・環境整備」の取組の推進による競技力の向上や、大会後の競技水準の定着を図る。

指 標	計画策定時	現 状				目 標	達成率 (%)	評価	
		R5	R6	R7	R8	R9			
Ⅲ 感動を未来へつなぐ									
指 標	6 わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等に向けた競技力向上と競技水準の定着								
⑭	国体・国スポ総合順位	20位 (R4)	17位	8位	-	-	本県開催年度 (R7)：優勝 本県開催後： 15位以内	63.2	A
⑮	日本代表強化指定選手数（令和5年度(2023年度)以降の累計)	オリンピック 21人	18人	38人	-	-	125人以上	30.4	B
		パラリンピック 17人 (令和3年度単年の指定選手数)	28人	54人	-	-	100人以上	54.0	A

【施策の総括】

第78回国民スポーツ大会の総合順位は前年を上回る成績を収めることができたものの、3位以内という目標には届かなかった。スポーツ特別指導員やふるさと選手など新たに本県選手として出場した成年選手の活躍や2025年のターゲットエイジ世代のみならず、延期の影響を受けた2024ターゲットエイジの少年選手の活躍により、全種別において前回大会を大きく上回る競技得点を獲得できたことなど、強化事業の成果は着実に現れている。

第79回国民スポーツ大会での総合優勝のためには、第78回大会の総合得点に約1,000点の上積みが必要である。各競技団体の目標達成に向けて、強化指定選手を集中的に強化することで第79回大会において確実に入賞・得点できる実力を養う必要がある。

一方、第23回全国障害者スポーツ大会の個人競技では、過去最高数のメダルを獲得することができた。団体競技については、本大会への出場は1種目のみとなったが、近畿予選会にはすべての種目でお出場で出ることができ、これまでの育成・強化の取組の成果を得ることができた。

第24回大会では、全競技に出場することとなるが、出場するすべての選手が自信を持って競

技に臨むことができるよう、競技別練習会等の充実を図る。

【施策の実施状況および今後の方向性】

(1) 選手の育成・強化（条例第19条）

ア 施策の実施状況

県内在住の小学5年生40人を「滋賀レイキッズ第11期生」に認定し、10期生、11期生に対し育成プログラム（計25日間）を実施したほか、令和4年度から設置している「トライキッズ」に、レイキッズセレクトプログラム受検者の登録を促した。また、競技団体に対し、トライキッズが参加できる事業の実施を働きかけた。

少年種別については、開催まで1年を切った12月に「ターゲットエイジ強化指定選手」から「わたSHIGA輝く国スポ強化指定選手」として改めて認定証を交付（42競技 843人）し、競技ごとに質・量を増やして強化事業に取り組んだ。また、支援を続けてきた鹿児島国体の延期の影響を受けた選手は、佐賀国スポで少年種別の主力として活躍を見せた。さらに、「高校生トップアスリート支援事業」において、引き続き本県の代表として活躍が期待できる選手への支援を行い、優秀な選手の県外流出の抑止に努めた。

成年種別については、ふるさと選手等の活躍や県スポーツ協会による「スポーツ特別指導員」の雇用、「SHIGAアスリートナビ」を通じた民間企業での雇用などを通じた選手獲得により、第78回国民スポーツ大会での成年種別成績の向上につながった。

女性アスリートに対する支援の一環として、月経等女性特有の課題を抱える7人の医療機関受診に対し支援を行った。

また、わたSHIGA輝く障スポに向けては、新たに33人の選手を確保し、競技別出場枠に対する選手数を充足することができた。また、強化指定選手を集めた個人競技の強化練習会を拡充するなど支援を強化した。

イ 施策の今後の方向性

わたSHIGA輝く国スポに向けた「成年選手確保計画」により獲得した成年選手や県代表基軸チーム、強化指定選手として認定された少年選手が、質・量の伴った強化事業を円滑に行うことができるよう、大学、民間企業、学校、県スポーツ協会等、選手の所属先となる各主体との連携をさらに深め、目標である総合優勝・天皇杯獲得につなげる。

わたSHIGA輝く障スポに向けては、出場するすべての選手が自信を持って競技に臨むことができるよう競技別練習会の充実を図るとともに、大会後の継続を視野に入れた他府県選手との練習試合や大学生等による「練習パートナー」の練習会への参画などの取組を促進する。

(2) 指導体制の充実（条例第19条）

ア 施策の実施状況

競技団体等が実施する強化事業に全国レベルの優秀な指導者を定期的に招聘し、直接指

導を受けることで選手の競技力向上、県内指導者の資質向上を図った。

また、競技団体の指導力と組織力強化を図るため、各競技団体のプロジェクトチームリーダーを集め、研修会を開催した。

イ 施策の今後の方向性

「スーパーアドバイザー招聘事業」による講師招聘回数の増加など事業を拡充し、第79回国民スポーツ大会に向けた競技力の底上げを図るとともに、県内指導者が当該講師の指導法の習得に努めることで、本県における大会終了後の指導力の向上を図る。

(3) 強化拠点の構築・環境の整備（条例第19条）

ア 施策の実施状況

教職員が指導者や選手としてわたSHIGA輝く国スポに向けた競技力向上対策事業に参加する際に生じる所属校への負担軽減のため、教育委員会と連携し県立学校に対する非常勤講師の配置を行ったほか、私立学校に対しても同様の趣旨の負担軽減を図った。

アスリートに向けた医科学サポートとして、特別国民体育大会の代表選手を対象とするメディカルチェックの対象を全競技に拡大するとともに、ドーピング防止に向けた「アスリートおくすり手帳」の制作を行った。

障害者スポーツにおいては、「2025強化指定選手・スタッフリスト」に基づくスタッフ確保に取り組み、新たに69人のスタッフを確保した。

イ 施策の今後の方向性

引き続き、指導者や選手となる教員が所属する県立・私立学校の負担軽減に取り組むとともに、国スポ派遣選手に対するメディカルチェックシステムの着実な運用、選手や指導者、医療機関等に対するアンチ・ドーピング啓発活動の充実を図る。

加えて、会場市町等が実施するPRイベントへのトップアスリートの参加支援や各種メディア・SNSでの選手の活躍情報の事前発信を通じ、本県代表選手が地元住民・児童・生徒等多数の県民の応援のもと競技に臨める機運の醸成に努める。

(4) 大会後の競技水準の定着（条例第19条）

ア 施策の実施状況

次世代アスリートの発掘・育成システム「滋賀レイキッズ」を継続して実施するとともに、就職支援システム「SHIGAアスリートナビ」協力企業の拡大に努め、新たに3社の登録を得るなど、大会後も滋賀にとどまることのできる環境整備に努めた。

イ 施策の今後の方向性

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催を通して培ったヒト・ノウハウや整備の進んだ施設など、大会に向けた取組の過程で得られた成果をすべての県民が持続的に享受するための方針を策定し、県民のスポーツに親しむ機会の創出につなげる。

(施策7) 地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承

【施策目標】

わたSHIGA輝く国スポ・障スポやワールドマスターズゲームズ2027関西等の開催を契機として、地域の特性を生かした滋賀らしいレガシーを創出し、未来へ継承する。

指 標	計画 策定時	現 状				目 標	達成 率(%)	評 価	
		R5	R6	R7	R8	R9			
Ⅲ 感動を未来へつなぐ									
指 標	7 地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承								
⑯	成人（男・女）の週1 回以上のスポーツ実施 率 ※再掲	男性 55.2% 女性 48.6% (ともにR3)	54.9%	54.6%	-	-	70%以上 70%以上	0 0	B B
⑰	スポーツを観戦した県 民の割合（テレビ観戦 などは除く）	21.5% (R4)	21.9%	22.4%	-	-	40%以上	4.9	B
⑱	スポーツボランティア 参加者数（本県ボラン ティア登録システム利 用）※再掲	1,867人 (R3)	1,300 人	2,259 人	-	-	3,800人 以上	20.3	B

【施策の総括】

成人の週1回以上のスポーツ実施率は長期的にみると増加傾向にあるものの、令和6年度実績は、令和3年度の基準値よりも男性、女性ともに低下した。また、年齢別では20歳台から40歳台までの世代の実施率が低くなっている。（再掲）

スポーツを観戦した県民の割合（テレビ観戦などは除く）は、令和5年度から微増となったが、プロスポーツやわたSHIGA輝く国スポ・障スポの盛り上げにより、「みる」スポーツを推進していく。

スポーツボランティア参加者数については、びわ湖マラソンのボランティア参加者が増加したことにより、令和5年度と比較して約1,000人の増となった。なお、県外からの参加者数は147人であった。（再掲）

地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承に向けて、2025年（令和7年）に開催するわたSHIGA輝く国スポ・障スポならびに2027年（令和9年）に開催するワールドマスターズゲームズ2027関西を通して県民が広くスポーツに触れる環境をつくとともに、新

たなシンボルスポーツの誕生やスポーツボランティア文化の定着など様々なレガシーを創出していく。

【施策の実施状況および今後の方向性】

(1) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等の開催（条例第17条）

ア 施策の実施状況

わたSHIGA輝く国スポ・障スポの開催に向けて、競技会場施設の整備や競技別リハーサル大会の運営に対する市町への支援を行ったほか、機運醸成を図るため、市町、企業団体等と連携した広報啓発活動の展開や新たな大会プロモーション映像の作成、イメージソング「シャイン！！」をはじめマスコットキャラクター・愛称・スローガン、公式ポスター等を活用した様々な手段による広報展開をおこなった。

さらに、ボランティアの募集および養成に取り組んだほか、配宿計画や輸送計画に基づいてバスや宿泊施設の確保を進めるなど、大会本番に向けた各種準備に取り組んだ。

イ 施策の今後の方向性

わたSHIGA輝く国スポ・障スポの開催年を迎え、円滑で安全安心な大会運営のために万全の準備を進め、本番を想定した対策に取り組む。あわせて、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言」に基づき、環境に配慮した大会を目指すとともに、障害のある方々に寄り添った取組の充実、さらには心のこもったおもてなしに努め、両大会を通じて滋賀の魅力を全国に発信できるよう、着実に準備を進める。

また、各競技会開催に向けた市町、競技団体に対する支援を行うほか、更なる機運醸成に向け、街を大会装飾で彩るシティドレッシングの展開など、県民や企業、市町の協力を得ながら大会の盛り上げにつなげる。

(2) レガシー創出・未来への継承（条例第17条）

ア 施策の実施状況

令和6年4月1日付で設置したレガシー2025創出推進本部において、両大会のレガシー創出に向けた取組や、滋賀県基本構想の目標年である2030年を見据えたレガシーの継承について議論を行った。同本部では、大会準備にとどまらず大会を契機にどのような滋賀づくりをしたいのか、どのような暮らしが作れるのかといった視点で、これまでからの施策の磨き上げや新たな魅力創出につながる具体的施策について検討した。

イ 施策の今後の方向性

施策構築方針やレガシー2025創出推進本部での議論を通じて部局横断的にレガシー創出に向けた具体的施策の検討を進めることで、開催基本構想に掲げるレガシー創出に向けた取組を具体化し、継承していく。

わたSHIGA輝く障スポ後の 障害者スポーツの推進について



障害者スポーツの計画での位置づけ

第3期 滋賀県スポーツ推進計画





障害者スポーツの計画における位置づけ

第3期 滋賀県スポーツ推進計画

施策3 障害のある人のスポーツ活動の充実

【施策目標】

障害のある人が気軽にスポーツを楽しみ、継続して取り組める環境をつくる。

【指 標】

	現状	目標 (令和9年度)
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.4% (令和4年度)	50%以上
県障害者スポーツ大会等の参加者数	899人 (令和3年度)	1,600人以上
公認障がい者スポーツ指導者数	345人 (令和3年度)	490人以上

わたSHIGA輝く障スポの開催

愛称	わたSHIGA輝く障スポ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ○障害のある選手がスポーツの楽しさを体験 ○国民の障害に対する理解を深める ○障害者の社会参加の推進 
開催期間 (滋賀障スポ)	令和7年(2025年)10月25日～10月27日の3日間
実施予定競技	<ul style="list-style-type: none"> ○正式競技〔14競技(個人7、団体7)〕 ○オープン競技
参加者数	約5,500人(選手・監督・役員)

**全国身体障害者
スポーツ大会**



**全国知的障害者
スポーツ大会**

昭和56年(1981年)に滋賀で開催

平成13年(2001年)に統合



平成20年(2008年)にバレーボール
(精神障害)追加

全国障害者スポーツ大会



わたSHIGA輝く障スポがよいよ始まる

○障スポ大会期日
令和7年10月25日(土)～27日(月)

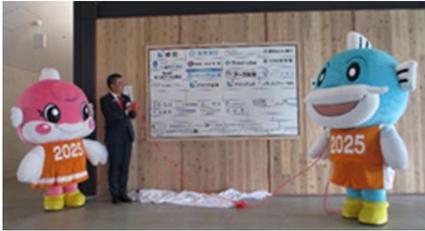
○実施競技、開催期日及び会場

	実施競技	開催期日	会場名	
	開会式	10月25日(土)	平和堂HATOスタジアム	
	閉会式	10月27日(月)	平和堂HATOスタジアム	
個人競技	陸上競技(身・知)	10月25日(土)～27日(月)	平和堂HATOスタジアム	
	水泳(身・知)	10月25日(土)～26日(日)	インフロニア草津 アクアティクスセンター	
	アーチェリー(身)	10月26日(日)	愛荘町スポーツセンター 秦荘グラウンド	
	卓球(身・知・精) 【サウンドテーブルテニス(身)を含む】	10月25日(土)～26日(日)	野洲市総合体育館	
	フライングディスク(身・知)	10月25日(土)～27日(月)	甲賀市水口スポーツの森	
	ポッチャ(身)	10月25日(土)～26日(日)	甲賀市水口体育館	
	ボウリング(知)		ラピュタボウル彦根	
団体競技	バスケットボール(知)	10月25日(土)～26日(日)	滋賀ダイハツアリーナ	
	車いすバスケットボール(身)		滋賀ダイハツアリーナ	
	ソフトボール(知)		高島市今津総合運動公園 第1グラウンド・第2グラウンド	
	グラウンドソフトボール(身)		東近江市総合運動公園 布引多目的グラウンド	
	バレーボール(身)		近江八幡市立運動公園体育館	
	バレーボール(知)		湖南市総合体育館	
	バレーボール(精)		草津市立総合体育館	
	サッカー(知)		10月25日(土)～27日(月)	野洲川歴史公園サッカー場
	フットソフトボール(知)		10月25日(土)～26日(日)	県民共済ドーム長浜

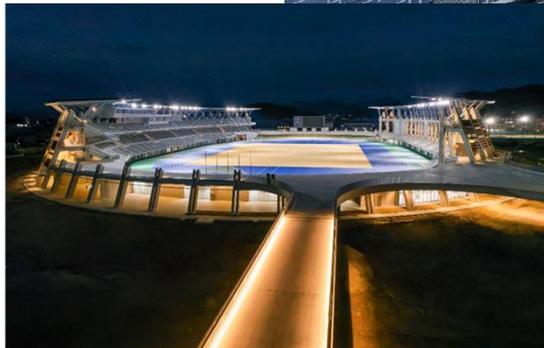


平和堂HATOスタジアム（主会場）の整備

開閉会式会場・陸上競技会場



北には
伊吹山
(日本百名山)



◇県内唯一の第1種陸上競技場

世界陸連の認証を受け、世界記録の公認ができる本県スポーツの拠点

◇歴史景観に配慮した競技場

フィールドから世界遺産登録を目指す彦根城が！

◇一帯を総合スポーツ公園として整備

世代を超え、障害のある方もない方もスポーツを通じて交流できる公園へ

所在地:彦根市松原町

JR彦根駅から徒歩 約20分
名神高速彦根ICから約10分



競技会場地

第79回国民スポーツ大会・
第24回全国障害者スポーツ大会
会場地市町配置図
(R5.8時点)

第79回国民スポーツ大会

2025年 9月28日(日)～10月 8日(水)

- **正式競技** 37競技
- **特別競技** 1競技
- **公開競技** 7競技
- **デモンストレーションスポーツ** 25競技

第24回全国障害者スポーツ大会

2025年10月25日(土)～10月27日(月)

- **正式競技** 14競技
- 【身】 身体障害者出場競技
- 【知】 知的障害者出場競技
- 【精】 精神障害者出場競技

オープン競技 4競技

開閉会式会場 (平和堂HATOスタジアム)



県外開催競技

京都府向日市 大阪府豊能郡能勢町 兵庫県三木市

自転車 (トラック・レース)	ライフル射撃 (50m, 10m, BR-BP)	馬術
----------------	--------------------------	----

大津市

サッカー	テニス	ローイング (ボート)	体操(競技)
体操(新体操)	体操 (トランポリン)	バスケットボール	セーリング
フェンシング	バドミントン	ライフル射撃 (25m)	空手道
高等学校野球 (硬式)	スポーツ拳法	スリッスマイル ゴルフ	百人一首 競技かるた
バスケットボール【知】	車いすバスケットボール【身】	スポーツウエルネス	

草津市

水泳(競泳)	水泳(飛込)	水泳(水球)	水泳 (アイススケルゲイン)
バレーボール (6人制)	バスケットボール	軟式野球	ソフトボール
バレーボール【精】	インディアカ	スポーツウエルネス	水泳【身・知】

守山市

サッカー	バレーボール (6人制)	軟式野球
ソフトボール	エアロビック	遠征軟式野球
ミックスバレーボール	サッカー【知】	ゴールボール

栗東市

レスリング	ゴルフ	パワーリフティング
スポーツチャバラ	スローイングピッチ	ビリヤード
卓球/バレー		

高島市

ウェイトリフティング	ソフトボール	銃剣道
高等学校野球(軟式)	里湖で地域を結ぶウォーキング	ソフトボール【知】



野州市

バスケットボール	卓球	武術太極拳
スポーツ鬼ごっこ	マリンスポーツフェスティバル	卓球【身・知・精】

県運営競技

※競技会場は野州市です。
※ラグビーフットボールについては滋賀県が準備運営を行います。

ラグビーフットボール

湖南市

剣道	キンボールスポーツレクリエーション	バレーボール【知】
----	-------------------	-----------

※バレーボール【知】は、知的障害者が出場できる競技です。

近江八幡市

バレーボール (6人制)	ハンドボール	軟式野球
トライアスロン	綱引	ウォーキング
バレーボール【身】		

※バレーボール【身】は、聴覚障害者が出場できる競技です。

竜王町

スポーツライミング(リード)	スポーツライミング(ボルダー)
卓球	

日野町

軟式野球

長浜市

水泳オープン(フォーメーション)	バレーボール(ビーチバレーボール)	ソフトテニス	相撲
柔道	ゲートボール	ユニカール	フットソフトボール【知】

米原市

ホッケー	フットサル	ユニホック
------	-------	-------

彦根市

陸上競技	ハンドボール	弓道	なぎなた
ひこねスーパーカラム	陸上競技【身・知】	SOバドミントン	
ボウリング	ボウリング【知】		

県・市町共催 (競技会場は彦根市です。)
滋賀県・彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町

ボウリング	ボウリング【知】
-------	----------

愛荘町

アーチェリー	アーチェリー【身】
--------	-----------

多賀町

モルック

東近江市

サッカー	ボクシング	自転車 (ロード・レース)	軟式野球
ソフトボール	カヌー (スプリント)	ゴルフ	ネットでポンポン
グランドソフトボール【身】			

甲賀市

サッカー	軟式野球	ゴルフ	高等学校野球(軟式)	グラウンドゴルフ
カローリング	ソフトバレーボール	フライングディスク【身・知】	ボッチャ【身】	

※サッカーについては、大津市・守山市と甲賀市が準備運営を行います。

障害者スポーツ振興事業

目的： 障害のある人がスポーツに取り組むきっかけづくりや県障害者スポーツ大会の開催等を通じて、障害者スポーツの振興を図る。

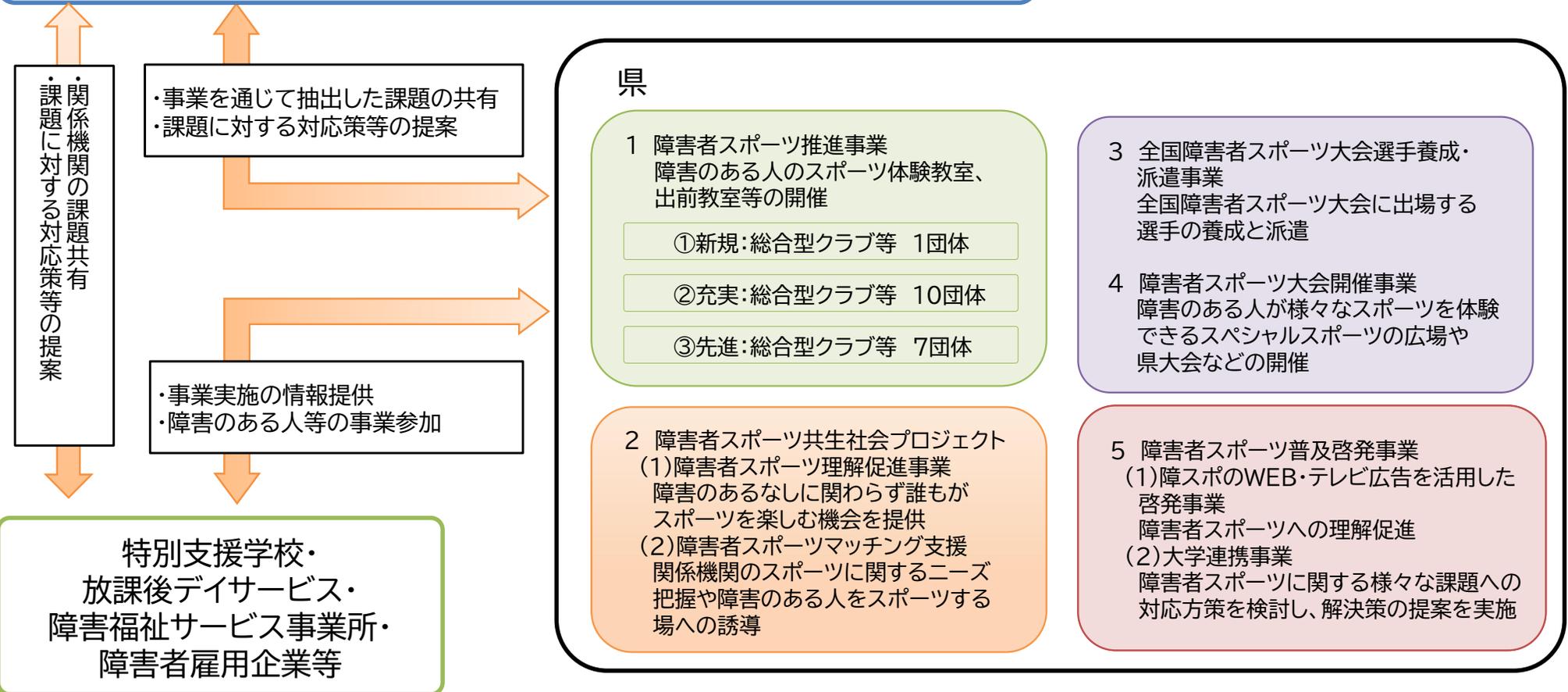
身近な地域でスポーツに親しむことができる環境を充実・整備
【障害者の社会参加の促進】

障害のある人の一生涯の健康づくり

スポーツを通じた共生社会の実現

○障害者スポーツ推進会議

- ・事業に対する助言や事業を実施する上での課題の整理、対応策の検討
- ・特別支援学校・障害福祉サービス事業所等への助言や、関係機関が抱える課題の整理、対応策の検討



課題に対する対応策等の提案

・事業を通じて抽出した課題の共有
・課題に対する対応策等の提案

・事業実施の情報提供
・障害のある人等の事業参加

特別支援学校・
放課後デイサービス・
障害福祉サービス事業所・
障害者雇用企業等

県

1 障害者スポーツ推進事業
障害のある人のスポーツ体験教室、出前教室等の開催

- ①新規：総合型クラブ等 1団体
- ②充実：総合型クラブ等 10団体
- ③先進：総合型クラブ等 7団体

3 全国障害者スポーツ大会選手養成・派遣事業
全国障害者スポーツ大会に出場する選手の養成と派遣

2 障害者スポーツ共生社会プロジェクト
(1)障害者スポーツ理解促進事業
障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを楽しむ機会を提供
(2)障害者スポーツマッチング支援
関係機関のスポーツに関するニーズ把握や障害のある人をスポーツする場への誘導

4 障害者スポーツ大会開催事業
障害のある人が様々なスポーツを体験できるスペシャルスポーツの広場や県大会などの開催

5 障害者スポーツ普及啓発事業
(1)障スポのWEB・テレビ広告を活用した啓発事業
障害者スポーツへの理解促進
(2)大学連携事業
障害者スポーツに関する様々な課題への対応方策を検討し、解決策の提案を実施

1 障害者スポーツ振興事業【「する」場の確保】

1 障害者スポーツ推進事業

障害者スポーツ実施体制整備事業(①新規・②充実・③先進)

総合型地域スポーツクラブ等による地域での障害者スポーツ実践を通し、地域で継続して障害者スポーツに取り組むうえでの課題整理とその対応策を講じることで、障害者が身近な地域でスポーツができる環境を整えるとともに、地域での障害者の理解促進を図る。

	①新規	②充実	③先進
スポーツの実践 (スポーツ教室等)	3回以上	6回以上	9回以上
特徴	・障害者との関わり方や指導方法を学び、継続して障害者スポーツの実践ができるように課題を抽出する	・事業終了後も継続して障害者スポーツが実施できるようノウハウを確立する	・障害者スポーツに取り組もうとする団体への講師派遣や、自らの教室に招き、ノウハウを伝授することで新たな指導者を育成する

1 障害者スポーツ振興事業【「する」場の確保】

《実施予定団体》 実施体制整備事業(①新規・②充実)

	クラブ・団体名	地域	取組年数	運営方法
充1	高月総合型スポーツクラブ ピース	長浜市	11年目	既存教室の開放
充2	ぽぽんた倶楽部	甲賀市	10年目	福祉事業所との連携によるスポーツ教室
充3	奥びわ湖スポーツクラブ	長浜市	10年目	福祉事業所との連携によるスポーツ教室
充4	NPO法人能登川総合スポーツクラブ	東近江市	9年目	福祉事業所との連携によるスポーツ教室
充5	NPO法人多賀やまびこクラブ	多賀町	9年目	障害児放課後等デイサービスとの連携によるスポーツ教室
充6	湖南省ちよいスポクラブ	湖南省	5年目	地域の障害者向けスポーツ教室
充7	はーと貴生川スポーツクラブ	甲賀市	5年目(4)	福祉事業所との連携によるスポーツ教室
充8	余呉はごろもクラブ	長浜市	5年目(4)	地域の障害者向けスポーツ教室
充9	伴谷BANBANクラブ	甲賀市	5年目(3)	地域の障害者向けスポーツ教室
充10	NPO法人 スペシャルオリンピックス日本・滋賀	大津市	2年目	知的障害者向けスポーツ教室
新11	新規団体募集	—	—	—

※()内の数字は、令和2～4年度に実施していた障害者スポーツ地域促進モデル事業(親クラブ・子クラブ)での実施期間を除いた年数

1 障害者スポーツ振興事業【「する」場の確保】

《実施予定団体》 実施体制整備事業(③先進)

	クラブ・団体名	地域	取組年数	運営方法
1	NPO法人こうかサスケくらぶ	甲賀市	10年目	福祉作業所との連携によるスポーツ教室および既存教室の解放
2	NPO法人レインボークラブ	甲賀市	10年目	福祉事業所との連携によるスポーツ教室および既存教室の解放
3	NPO法人TSC	高島市	9年目	地域の障害者向けスポーツ教室
4	きのもとeye's	長浜市	9年目	福祉作業所との連携によるスポーツ
5	NPO法人アザックとよさと	豊郷町	6年目	福祉事業所との連携によるスポーツ教室
6	守山市障害者スポーツ協会	守山市	3年目	地域の障害者向けスポーツ教室
7	甲賀市パラスポーツ協会	甲賀市	3年目	地域の障害者向けスポーツ教室

2 障害者スポーツ振興事業【共生社会の実現】

2 障害者スポーツ共生社会プロジェクト

障害者スポーツ実施環境の整備を一層促進するため、諸課題への対応方策について検討を進めるとともに、障害者スポーツ事業への多様な団体の参画を図り、スポーツを通じた共生社会の実現を目指す。

(1) 障害者スポーツ理解促進事業

障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを楽しむ機会(イベント等)を設けることで障害者スポーツに対する理解促進を図る。

《R7実施予定団体》

	団体名	地域	R6取組内容
1	公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	全域	各市町のスポーツ推進委員や指導員を対象に研修会を実施
2	滋賀県パラスポーツ指導者協議会	東近江・野洲・大津・米原・甲賀	障害者スポーツの体験会等を実施

(2) 障害者スポーツマッチング支援

障害者スポーツの中核を担う滋賀県障害者スポーツ協会内に福祉コーディネーターを設置し、福祉分野等のスポーツに関するニーズ把握を行うとともに、県大会や全国大会、総合型クラブ等での障害者スポーツ教室への誘導(マッチング支援)を実施する。

3&4 障害者スポーツ振興事業【大会への選手派遣】

3 全国障害者スポーツ大会選手養成・派遣事業

滋賀県障害者スポーツ協会へ委託し、全国障害者スポーツ大会に出場する選手の強化育成と競技力の向上を図り、全国大会出場選手および役員を派遣する。

今年の本県で開催されることから、例年30名程度であった出場選手が288名となり、関連する行事も増える。

日程	内容	場所
5/24(土)・25(日)	リハーサル大会	各競技会場
6/7(土)	出場選手認定式	文化産業交流会館
8/27(水)	滋賀県選手団結団壮行式 (国スポ・障スポ合同)	びわ湖大津プリンスホテル
10/23(木)	出発式	県民共済ドーム長浜 ・YMITアリーナ
10/24(金)	公式練習	各競技会場
10/25(土)	開会式・競技1日目	平和堂HATOスタジアム
10/26(日)	競技2日目	各競技会場
10/27(月)	競技3日目・閉会式・解団式	平和堂HATOスタジアム

4 障害者スポーツ大会開催事業

滋賀県障害者スポーツ協会へ委託し、障害者スポーツの振興を図り、障害者の社会参加を促進するため、滋賀県障害者スポーツ大会(選考会の部・フェスタ)とスペシャルスポーツの広場を開催する。

5 障害者スポーツ振興事業【普及啓発】

5 障害者スポーツ普及啓発事業

(1) 障スポのWEB・テレビ広告を活用した啓発事業

わたSHIGA輝く障スポに向けた機運醸成を図るとともに、障害者スポーツへの一層の理解が進むよう、啓発動画やリーフレットの作成等、普及啓発活動に取り組む。

＜パラスポーツ シンボルマークの作成＞

・啓発活動としてシンボルマークを作成

→障スポ大会に向けてロゴ入りスポーツボトルを出場選手や団体へ配布
総合型スポーツクラブへも配布し啓発活動に取り組む



(2) 大学連携事業

障害者スポーツに関する知見を有する大学が中心となり、障害者スポーツの教室開催や講習会等を通じ、障害者スポーツの実施環境の整備に係る指導者、ボランティア、新しい実施の枠組等の諸課題への対応方策を検討する。

《R7実施団体》

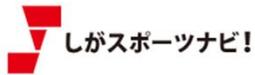
	大学名	研究調査テーマ
1	びわこ成蹊スポーツ大学	大学を拠点とした特別支援学校卒業後の障害者の運動(する)を推進する取組について
2	びわこリハビリテーション専門職大学	第24回全国障害者スポーツ大会を契機とした地域住民のパラスポーツに対する意識変化の実態調査



わたSHIGA輝く障スポに向けた取組・盛り上げ

	する	みる	支える
障害のある人	<ul style="list-style-type: none">・きっかけづくり 【スペシャルスポーツの広場、特別支援学校交流事業】・スポーツをする場の確保 【総合型地域スポーツクラブ等受け入れ、スポーツ施設における障害者団体の優先利用、スポーツ施設における障害者・介護者の利用料減免】・パラアスリートの活躍 【県大会スポーツフェスタ・選考会、全国障害者スポーツ大会、国際大会出場激励、びわ湖マラソン】	<ul style="list-style-type: none">・情報発信 【しがスポーツナビ】	<ul style="list-style-type: none">・支える機会の提供 【びわ湖マラソン】
共 通	<ul style="list-style-type: none">・情報発信 【しがスポーツナビ、啓発動画配信・チラシ配布】	<ul style="list-style-type: none">・観戦しやすい環境づくり 【ICTを活用したスポーツ観戦事業、スポーツ施設のバリアフリー】	<ul style="list-style-type: none">・指導者の確保 【指導者資格取得補助、コーチバンク、パラスポーツ指導者養成講座、スポーツボランティア支援】
県民全体	<ul style="list-style-type: none">・パラスポーツ啓発 【イベント等におけるパラスポーツ体験ブース出展、スポーツ大使交流事業】	<ul style="list-style-type: none">・関心の喚起 【しがスポーツナビ】 【スポーツ大使交流事業】	<ul style="list-style-type: none">・支援者の養成 【パラスポーツパートナー講座】
	パラスポーツを知る・する	パラスポーツをみる	パラスポーツを支える

情報発信 【障害のある人のする・みる・パラスポーツを知る・みる】





Language ▾



ambassador
スポーツ大使



みんなでつくる 滋賀の障害者スポーツ



SHIGA SPORTS NAVI

滋賀でスポーツをする、みる、支える！滋賀のスポーツ総合サイト



スポーツを
する！
PLAY

スポーツを
みる！
WATCH

スポーツを
支える！
SUPPORT

しがスポーツ
大使
AMBASSADOR

しがスポーツ
STORY



PLAY

スポーツをする！

滋賀でスポーツをする！琵琶湖を中心に抱え、四方を山に囲まれた滋賀県はウォータースポーツから山岳種目まで、様々な環境に恵まれています。実際にスポーツをすることができる温泉地の施設情報や競技情報、クラブ・サークル、イベント情報などを紹介します。

施設情報 競技情報

クラブ・サークル情報

TCH

ツをみる！

スポーツをみる！オリンピックメダリストなど、滋賀県出身や滋賀県に活動するトップアスリートのおなさんが語るしがスポーツの歴史や、プロアマチュアのスポーツなど。



> 水球
競技紹介
(YouTubeへ外部リンク)



> ライフル射撃
競技紹介
(YouTubeへ外部リンク)



> ボッチャ
競技紹介
(YouTubeへ外部リンク)



> 3x3(スリーエックススリー)
競技紹介
(YouTubeへ外部リンク)



> スカッシュ
競技紹介
(YouTubeへ外部リンク)



> 琵琶湖一周サイクリング
(ピワイチ)競技紹介
(YouTubeへ外部リンク)



> ゴールボール競技紹介
(YouTubeへ外部リンク)



> 競技紹介(マシンローリング)
(YouTubeへ外部リンク)



> 障害者スポーツ(卓球編)
(YouTubeへ外部リンク)



> 障害者スポーツ(卓球編)
(YouTubeへ外部リンク)



> 障害者スポーツ(水泳編)
(YouTubeへ外部リンク)



> 障害者スポーツ
(グラウンドソフトボール編)

< 前の月へ 2025年4月 次の月へ

月	火	水	木	金	土	日
31	1	2	3	4	5	6
			JLPGAステップ・アップ・ツアー YANMAR HANASAKA Ladies Golf 7			
7	8	9	10	11	12	13
					東レアローズ滋賀 ホームゲーム(女子)	
					東レアローズ滋賀 ホームゲーム(女子)	
14	15	16	17	18	19	20
	第42回びわこレディースソフトテニス大会				滋賀レイクス ホームゲーム(男子バス)	
21	22	23	24	25	26	27
					滋賀レイクス ホームゲーム(男子バス)	
28	29	30	1	2	3	4
						Coupe du J

パラスポーツ啓発

【障害のある人のする・パラスポーツを知る】

Mother Lake

しがスポーツ大使交流推進事業費補助金 募集案内

しがスポーツ大使交流推進事業費補助金とは……

滋賀県ゆかりのトップアスリートやスポーツチームと県民との交流を推進するため、スポーツ振興や地域活性化を目的とした事業を行う団体が「しがスポーツ大使」を招へいする際に要する経費の一部を補助する制度です。



■ 補助金の対象となる事業



伊藤みき氏によるスキー教室

県内で開催するスポーツ大会やスポーツイベント、スポーツ教室などや研修会や講演会等にしがスポーツ大使を指導者や講師として招へいする事業が対象です。
パラアスリートを招いての障害者理解や共生社会の実現も目的とした講演会なども対象となります。

<令和6年度の実施内容>
学校でのキャリア教育や総合的な学習の時間の講師、スポーツ教室入権集会での講演、スポーツ関連イベントへの出演 など

■ 補助金を受け取ることができる団体

小中学校・高校PTA・私立学校・スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ・市町スポーツ協会・競技団体・自治会等の団体・その他のスポーツ関連の非営利団体 等(県立学校への直接の補助はできません。)

※いずれも滋賀県内の団体に限り、営利目的の事業者は除く。

■ 補助金の対象となる経費と補助金の額

- ・しがスポーツ大使に支払う
【謝金】
【交通費】
【会場使用料】
- ・1団体につき1回あたり **上限50,000円**



小学校で講演する宇田秀生氏

※しがスポーツ大使への出演交渉などは、各団体で行っていただく必要があります。
※予算の都合により予告なく終了する場合があります。ご利用の際は事前にご相談ください。



☆☆☆ 問合せ先・お申込先 ☆☆☆
滋賀県 文化スポーツ部スポーツ課 交流推進室
〒520-8571 滋賀県大津市京町4丁目1-1
TEL 077-528-3366 FAX 077-528-4941
sports.epo@pref.shiga.lg.jp



チャッフィー
2025年のSHIGA県の国スポ・障スポ
マスコットキャラクター

しがスポーツナビ

検索

しがスポーツ大使は46人と9団体(令和7年4月1日現在)

我孫子智美(陸上)、伊藤みき(モーグル)、宇田秀生(パラトライアスロン)、大橋悠依(水泳)、木村敬一(水泳)、山中慎介(ボクシング)、滋賀レイクス(バスケットボール)、東近江バイオレット(野球) など。

詳細はHP「しがスポーツナビ!」をご覧ください

冬季オリンピック
3度出場



スキーモーグル
伊藤 みき

パリ2024/パリンピック
金メダリスト



競泳
木村 敬一

世界水泳ノロ種目
2大会連続2冠



アーティスティックスイミング
大橋 悠依

「神の左」の異名を持つ、元
WBC世界バンタム級王者



ボクシング
山手 慎介

東京2020オリンピック
日本女子初の2冠



競球
宇田 秀生

日本をアテネ五輪に
導いたパワフルカナ



バレーボール
大橋 悠依

女子棒高跳び
前日本記録保持者



陸上
我孫子 智美

オリ・パラ史上初!
トライアスロン競技メダリスト



トライアスロン
山手 慎介

リオオリンピック日本代表
琵琶湖が原点



伊藤 愛

東京/パリパラリンピック
日本代表



清水 颯

日本女子車いすバスケット
ボール選手権8連覇



我孫子 智美

リオパラリンピック
5位入賞



徳大康香
我孫子 智美

Bリーグ2024-2025シーズン
B1所属クラブ



「地域密着型」の
女子硬式野球チーム



Jリーグ加盟を目指す
滋賀のフットボールチーム



しがスポーツ大使55人・団体中
パラアスリート17人

「する」「支える」機会の提供 【障害のある人のする・支える】



コースマップ・アクセス



障害者ランナー枠

- 先着30名
- 障害あり、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方が対象となります。

■マラソンボランティア

- ・視覚障害者の所属する団体がランナーマッサージ
- ・特別支援学校の生徒や聴覚障害者の所属する団体が給水等のボランティア



スポーツを観戦しやすい環境づくり

【障害のある人のみる】

ICTを活用したスポーツ観戦事業

ICTを活用した音声配信(例: Plat Cast等)を行うことで、視覚障害者がスポーツ観戦するための取組を実施



このチラシからの応募で試合ご招待!! お申し込み

YANMAR ヤンマー #Football is our engine サポートマッチ

4.13 SUN 2024 14:00 KICKOFF! SOMPO WE LEAGUE

セレッソ大阪ヤンマーレディーズ VS 三菱重工浦和レッズレディーズ

平和堂HATOスタジアム 平和堂HATOスタジアム JR琵琶湖線 彦根駅徒歩約20分

滋賀県 障害福祉課 委託事業
令和6年度 ICTを活用したスポーツ観戦事業

現地限定
視聴
無料

実況・解説を楽しむならイヤホン必須!

VOLLEYBALL BROADCAST

視覚に障害がある方も、チラシ上部のQRコードを読み込むだけでプロの実況・解説入りのバレーボール中継をリアルタイムでお楽しみいただけます。

SV.LEAGUE 2025.02.16(日)
東レアローズ滋賀 VS SAGA久光スプリングス
解説: 高田 ありさ (東レアローズ滋賀OG)
実況: 関 陽樹 (びわ湖放送アナウンサー)

14:00ごろ スタート!

スポーツ施設の改善【障害のある人のする・みる】

障害者の介助者に対する利用料の減免

スポーツ施設のバリアフリー調査

第 24 回全国障害者スポーツ大会
 (わた SHIGA 輝く障スポ)
 競技会場バリアフリー調査
 報告書

【第 5 版】 令和 6 年 9 月 18 日



湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く
 国スポ・障スポ 2025

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

文士印:土木・業務責任者委員資料1
 令和6年(2024年)10月4日
 文士印:土木・業務責任者委員資料1

文化スポーツ部所管施設に係る設置および管理に関する条例の一部を改正する条例案について

- 1 改正の理由
 現行の利用料は、令和元年 10 月の全項目の見直し以来、約 5 年が経過すること、また、物価や人件費が上昇していることから、全項目を対象に見直しを行うもの。
- 2 基本的な方針
 ・受益者負担の原則の観点から、受益計算による所要経費と現行料金との差額について一定の増で改正を行う。(前記改正と同様の考え方)
 ・各施設での運用実態や広域施設の状況等を踏まえて減免規定の整理を行う。

3 改正の内容

(1)料金決定を行うもの

内容	対象
①原簿計算による所要経費と現行料金との差額について一定の増で改正	琵琶湖文化館および安土城考古博物館を統合管理施設
②③の内容および現在実施中の第一期展示リニューアルによる管理経費の増加を踏まえ、施設の使用料の増および利用料金の上限額を見直し	安土城考古博物館

※調整する金額は、施設別に、各年の収支の増減を前提に算出を行っている。

(2)減免規定の整理を行うもの

内容	対象
①案内の幼稚園・保育所等の行事として遊覧および引率者が随時する場合の観覧料(入場料)の無料化	琵琶湖文化館および安土城考古博物館
②高等学校等の生徒または 18 歳未満の者が施設展示を観覧する場合の観覧料(入場料)の無料化	安土城考古博物館
③障害者減免を実施する施設において、その付加	琵琶湖文化館、琵琶湖文化館、青少年総合研修所、安土城考古博物館、琵琶湖こども、遊覧アリーナ、県立体育館、新東体育館、武道館、スポーツ会館、アスリーナ、希望が丘野外活動センター、琵琶湖博物館、ライフル射撃場および吹運動場
④スポーツ施設における観覧料を障害者の拡大	希望が丘野外活動センター、県立体育館、新東体育館、武道館、アスリーナ、琵琶湖博物館、ライフル射撃場および吹運動場

用について減免の実施を統一



指導者の確保 【障害のある人の支える・パラスポーツを支える】

中学校・高校の部活動をサポート

滋賀コーチバンクシステム



あなたの経験を、子どもたちの未来へ。

指導者登録は
3分でOK!



<https://shiga-partner.spocul-bank.jp>

専門的な指導者を必要としている
部活動・地域クラブとマッチングします



登録すれば、こんないいこと、いい未来!

自分の知識・スキルを伝える喜び
指導したことが成果につながる喜び

地域の一員としての活動を通じて
人脈やコミュニティが広がる

大好きな競技にかかわり
報酬も得られる

「滋賀コーチバンクシステム」とは？

「滋賀コーチバンクシステム」は、地域が主体となって取り組む各種地域クラブ活動の指導者として協力・サポートいただける皆様、地域での活動に関心のある皆様に登録いただき、指導者を必要とする団体とのマッチングを進める仕組みです。滋賀県では、少子化の中でも子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保を目指し、部活動の地域連携や地域移行に取り組んでいます。

[滋賀コーチバンクシステム ご利用の流れ]



滋賀コーチバンクシステムに関するQ&A

Q. 対象となる活動内容（競技や種目など）は学校の部活動で行っているものだけでしょうか？

A. 登録いただく指導内容については限定していません。どんな活動でも幅広く登録することができます。

Q. 指導者の資格をもっていないと登録できませんか？

A. 登録は、資格や指導歴がなくてもできます。資格等がない場合は、無料の指導者講習会を受講していただけます。

Q. 登録後、依頼があった場合は必ず引き受けなければならないのでしょうか？

A. 必ず引き受けなければならないわけではありません。詳細内容や条件などが合わない場合にはお断りしても構いません。

Q. (指導者になった場合) 報酬は支払われますか？

A. 報酬や交通費等については、市町や運営団体・実施主体となる団体の規定に基づいて支払われます。

Q. 情報を公開されることに不安を感じるのですが。

A. すべての情報を公開するわけではありません。個人が特定される情報などは非公開となります。

特記事項

・登録いただいた情報については、滋賀県のホームページにて個人が特定されない範囲で公開させていただく場合がございます。

・滋賀県内各市町と情報を共有させていただきますが、目的外での使用は一切いたしません。

・登録者が必ず採用されるわけではありません。

お問合せ先

滋賀県文化スポーツ部スポーツ課

〒520-8577 滋賀県大津市京町 4-1-1

TEL : 077-528-3366 E-mail: sports_epo@pref.shiga.lg.jp

わたSHIGA輝く障スポのレガシーを考える

障スポ大会の成果

	R3	R4	R5	R6
スポーツイベント等への参加障害者	899人	1,442人	1,796人	2,053人
障スポ大会の認知度	9.9%	23.6%	31.6%	47.9%



障スポ大会のレガシーを未来へ

障スポ大会に向けて『障害者スポーツ大会への全競技参加』としていた目標を『障害のある人の健康づくり』および『スポーツを通じた共生社会の実現』へ転換

大会後の目指す姿(案)

障害のある人の

健康づくり



スポーツを通じた

共生社会の実現



施策の方向性(案)

- ①スポーツとの出会いや体を動かす楽しさを実感できるきっかけづくりの継続
- ②学校卒業後も気軽にスポーツを楽しみ、継続できる環境整備の拡充
- ③生涯にわたりスポーツを楽しめる機会の創出
- ④県民のパラスポーツへの関心の高まりの維持



委員の皆様からご意見をいただきたいこと

障スポ大会終了後、

- ①大会後の目指す姿は？
- ②障害者スポーツ施策の方向性は？
- ③障害者スポーツの課題は？
- ④具体的に取り組むべきことは？